

1 地域福祉に関する町民アンケートのまとめ

<調査方法、回収結果など>

- 調査対象者：平成25年4月1日現在、20歳以上の町民1,500人を無作為に抽出
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：平成25年5月25日～6月7日
- 回収結果

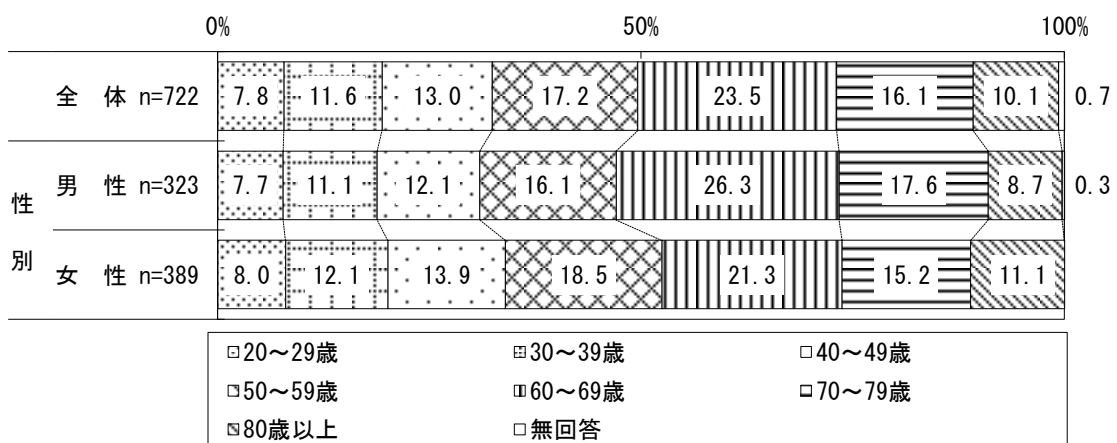
配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
1,500	727	48.5%	722	48.1%

<調査結果の概要>

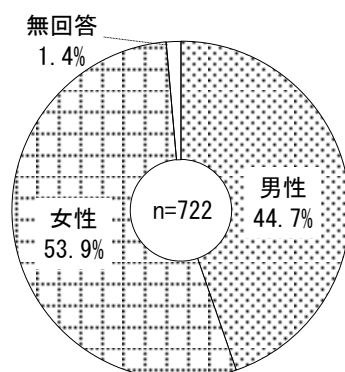
(1) 調査対象者の属性など

① 年齢・性別

○回答者の年齢は、60～69歳（23.5%）、70～79歳（16.1%）および80歳以上（10.1%）で、60歳以上が50%弱を占めています。

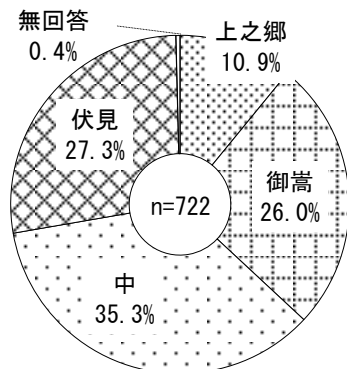


○性別にみると、男性より女性が高くなっています。



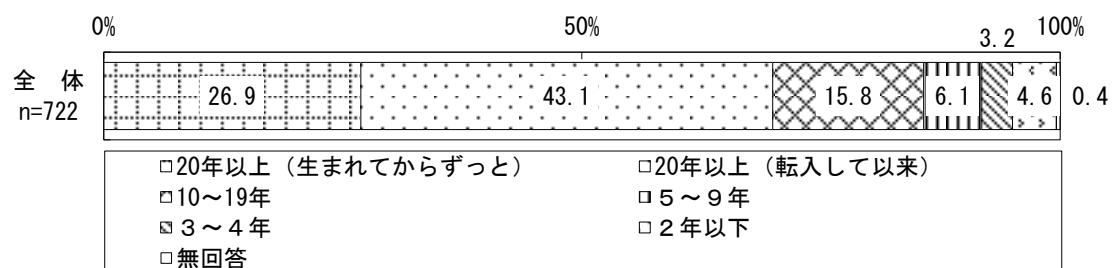
② 居住地区

○回答者の居住する地区は、中地区が35.3%、伏見地区が27.3%、御嵩地区が26.0%、上之郷地区が10.9%となっています。



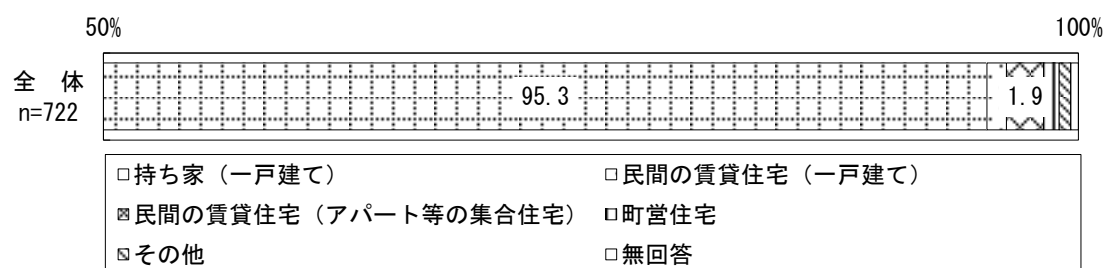
③ 居住年数

○現在の住まいに住んで何年になるかをたずねたところ、「20年以上（転入して以来）」が43.1%と最も高く、次いで「20年以上（生まれてからずっと）」が26.9%となっており、合わせて70%以上が20年以上住んでいることになります。



④ 住まいの形態

○住まいは、「持ち家（一戸建て）」が95.3%と圧倒的多数を占めています。



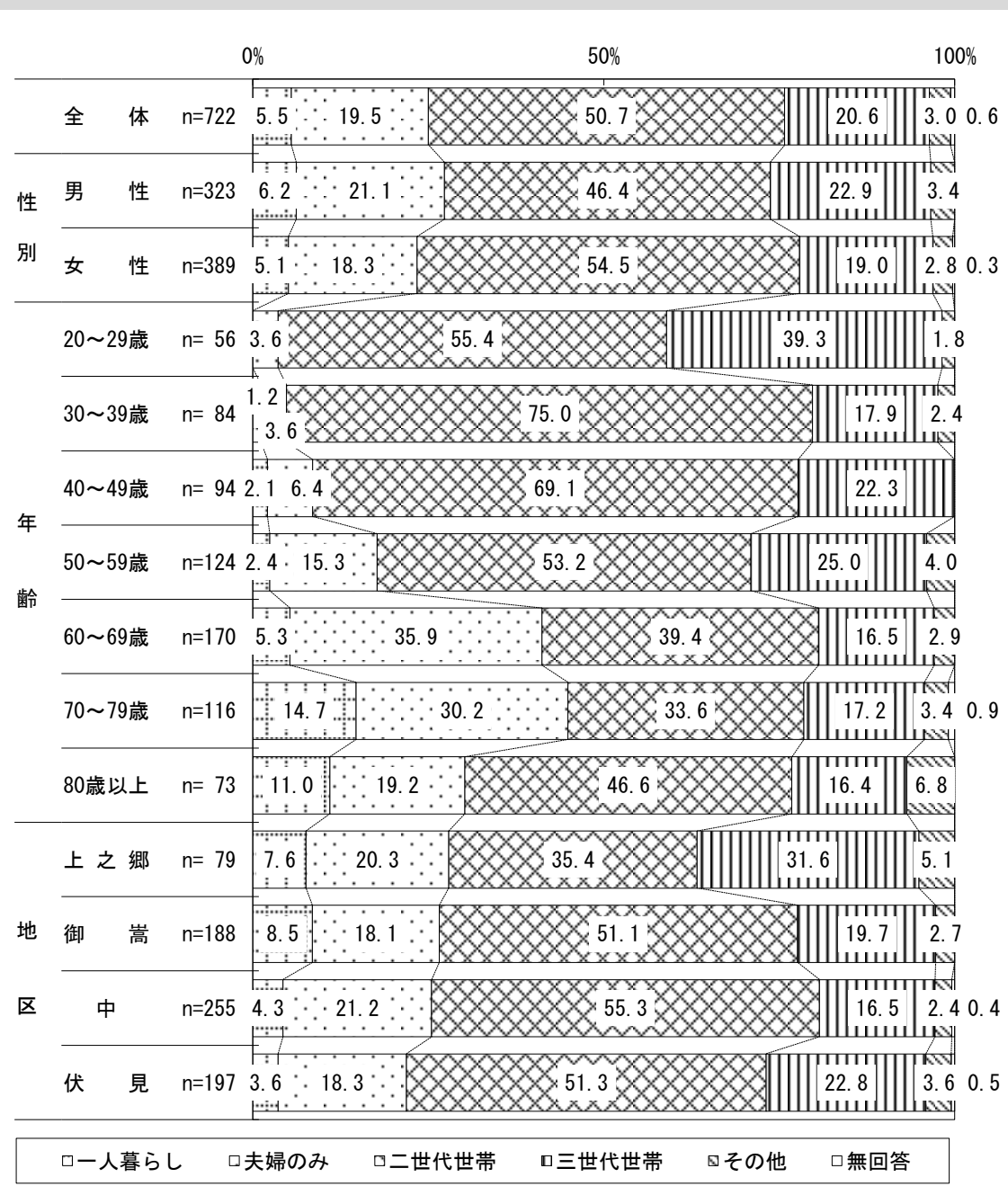
(注) グラフは表記の都合上 1%未満の値を省略しています。

⑤ 家族構成（世帯）

○回答者の家族構成（世帯）は、親と子の「二世代世帯」が50.7%と最も高く、次いで、祖父母と親と子の「三世代世帯」（20.6%）、「夫婦のみの世帯」（19.5%）の順となっています。

○年齢別にみると、いずれの年齢層も「二世代世帯」が最も高くなっていますが、60～69歳および70～79歳では「夫婦のみの世帯」が30%を超える高い率となっています。また、「一人暮らし」は70歳以上では10%を超えます。

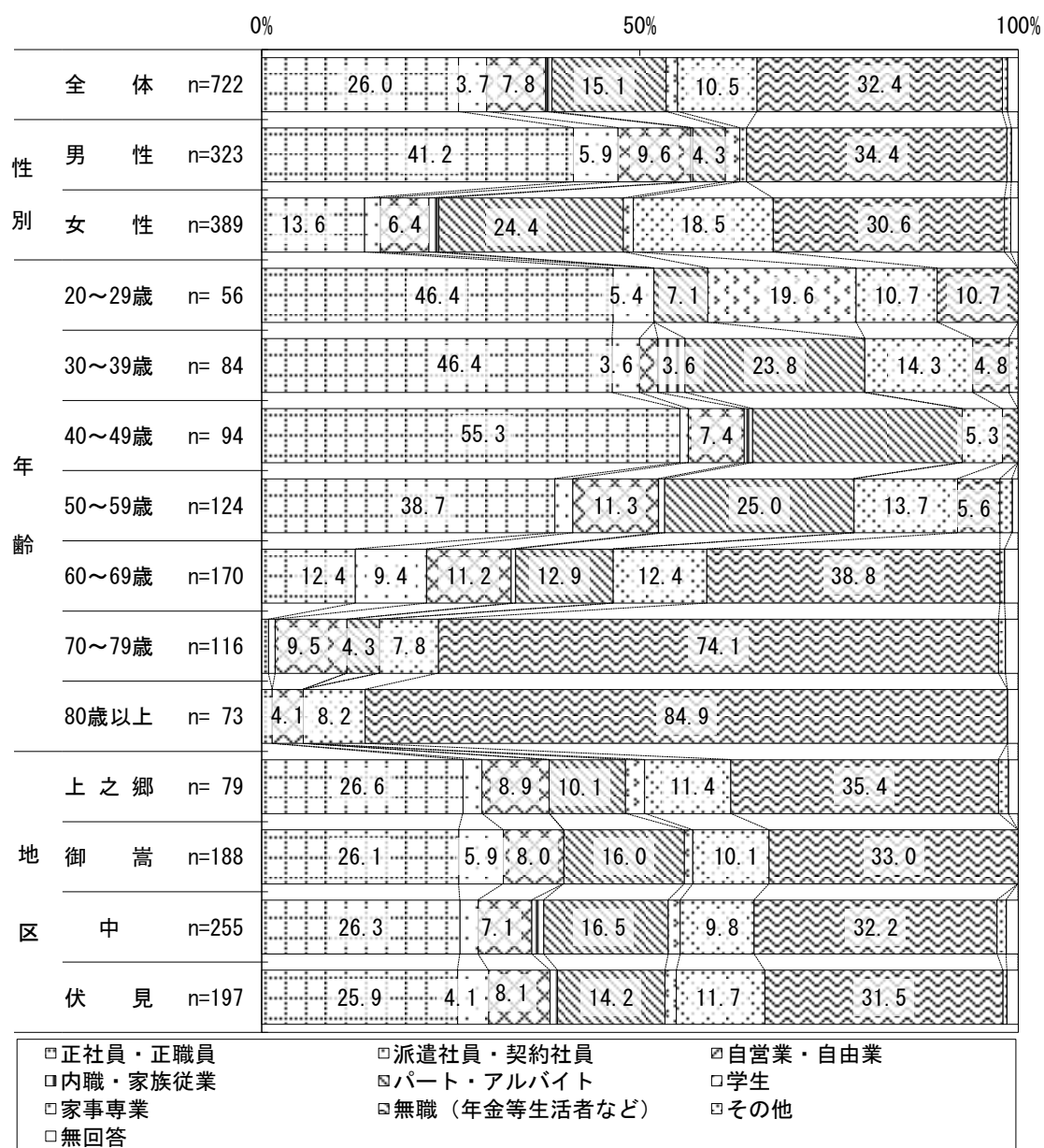
○地区別にみると、上之郷地区では「三世代世帯」が30%以上と他の地区に比べ高くなっています。



⑥ 就業・就学状況

○現在の就業・就学状況は、全体では「無職（年金等生活者など）」が32.4%と最も高く、次いで「正社員・正職員」(26.0%)、「パート・アルバイト」(15.1%)、「家事専業」(10.5%)などの順となっています。

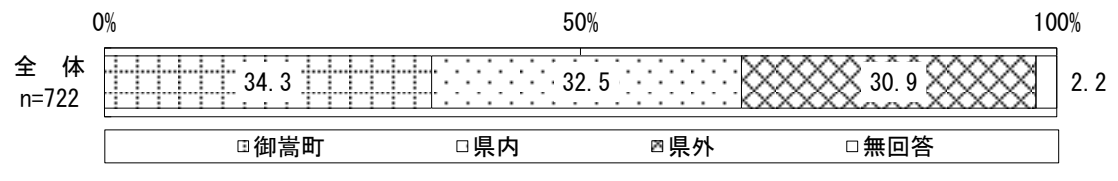
○男性は「正社員・正職員」が41.2%を占めているのに対し、女性は主婦が多くを占めているため「パート・アルバイト」(24.4%)と「家事専業」(18.5%)の合計が42.9%となっています。



(注) グラフは表記の都合上3%未満の値を省略しています。

⑦ 出生地

○生まれ（出生地）をたずねたところ、「御嵩町」生まれの人が34.3%、御嵩町を除く「県内」が32.5%、「県外」が30.9%となっていて、「御嵩町」生まれでない住民が60%以上を占めているという結果になっています。

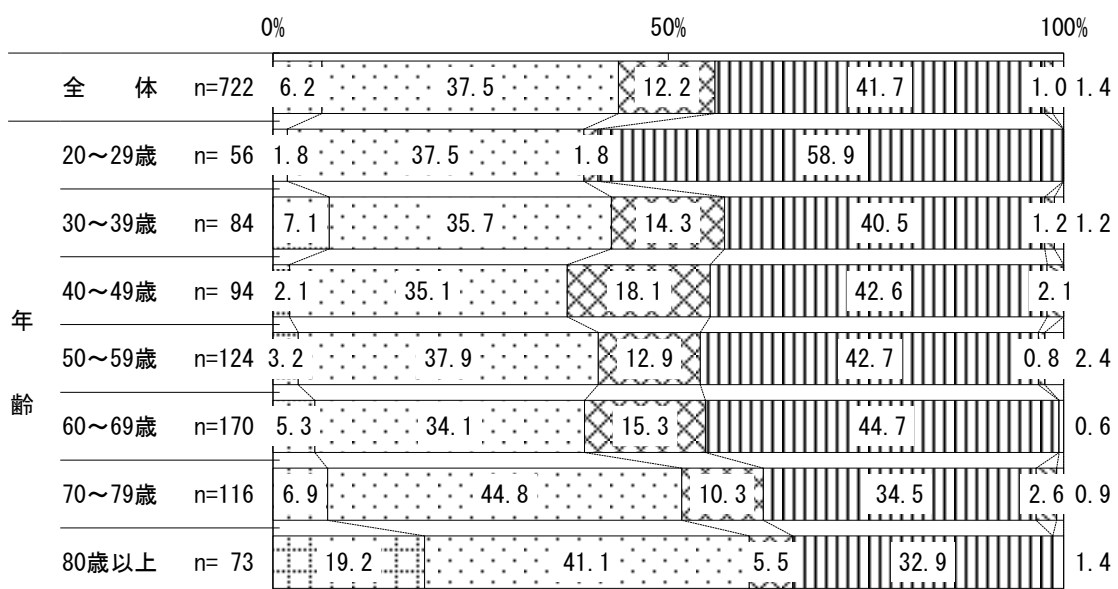


(2) 福祉・介護の考え方など

① 必要としている人が十分な福祉サービスを受けていると思うか

○「御嵩町において、福祉サービスを必要としている人が、十分なサービスを受けていると思いますか」という設問では、「十分受けていると思う」（6.2%）と「ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う」（37.5%）を合計した《受けていると思う》は、43.7%となっています。「わからない」が41.7%を占めています。

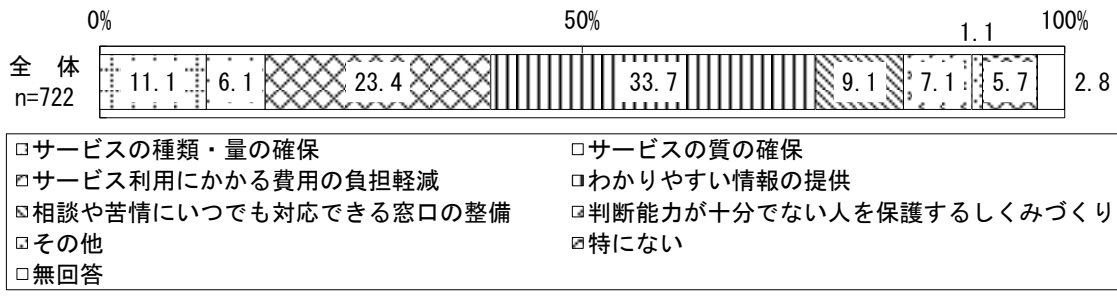
○年齢別にみると、《受けていると思う》は70歳以上で50%を超えています。これは介護保険サービスをはじめとする高齢者に対するサービスの利用者が多くいることに起因すると考えられます。



十分受けていると思う
 ある程度満足できる福祉サービスを受けていると思う
 十分な福祉サービスを受けているとは思えない
 わからない
 その他
 無回答

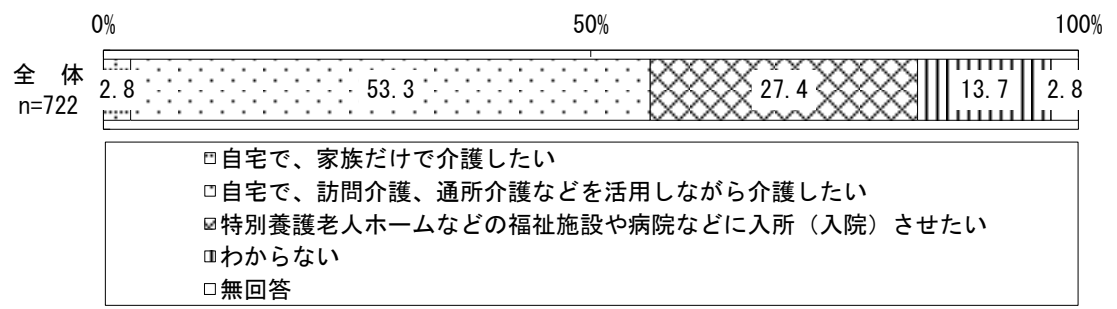
② 必要なサービスを安心して使うための取組

○「福祉サービスの利用者が必要なサービスを安心して使うためには、御嵩町は今後どのようなことに取り組む必要があると思いますか」という設問では、「わかりやすい情報の提供」が33.7%と最も高く、次いで「サービス利用にかかる費用の負担軽減」が23.4%となっています。



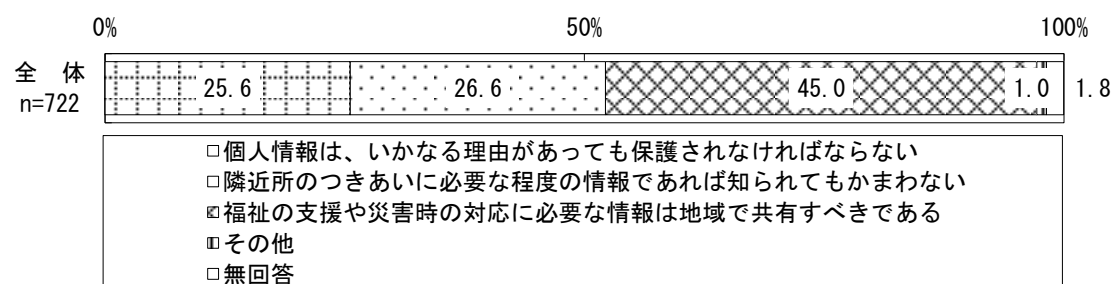
③ 家族に介護が必要になった場合の希望

○「仮にあなたの家族に介護が必要となったとき、どのようにしたいと思いますか」という設問では、「自宅で、訪問介護、通所介護などを活用しながら介護したい」が53.3%と圧倒的に高く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設や病院などに入所（入院）させたい」が27.4%となっています。



④ 個人情報の取り扱い

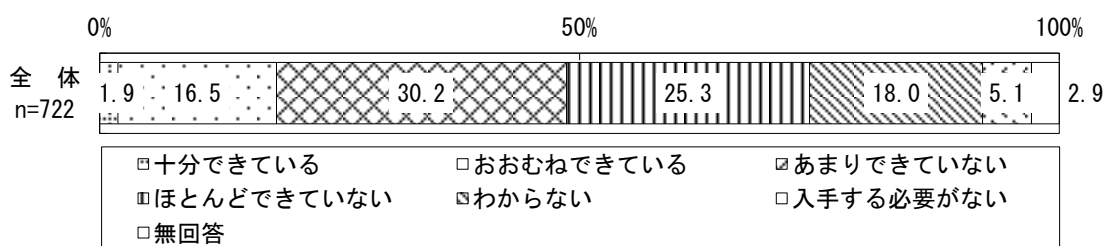
○「個人情報の取り扱いについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問では、「福祉の支援や災害時の対応に必要な情報は地域で共有すべきである」が45.0%と最も高く、次いで「隣近所のつきあいに必要な程度の情報であれば知られてもかまわない」が26.6%、「個人情報は、いかなる理由があっても保護されなければならない」が25.6%でした。



(3) 情報・相談

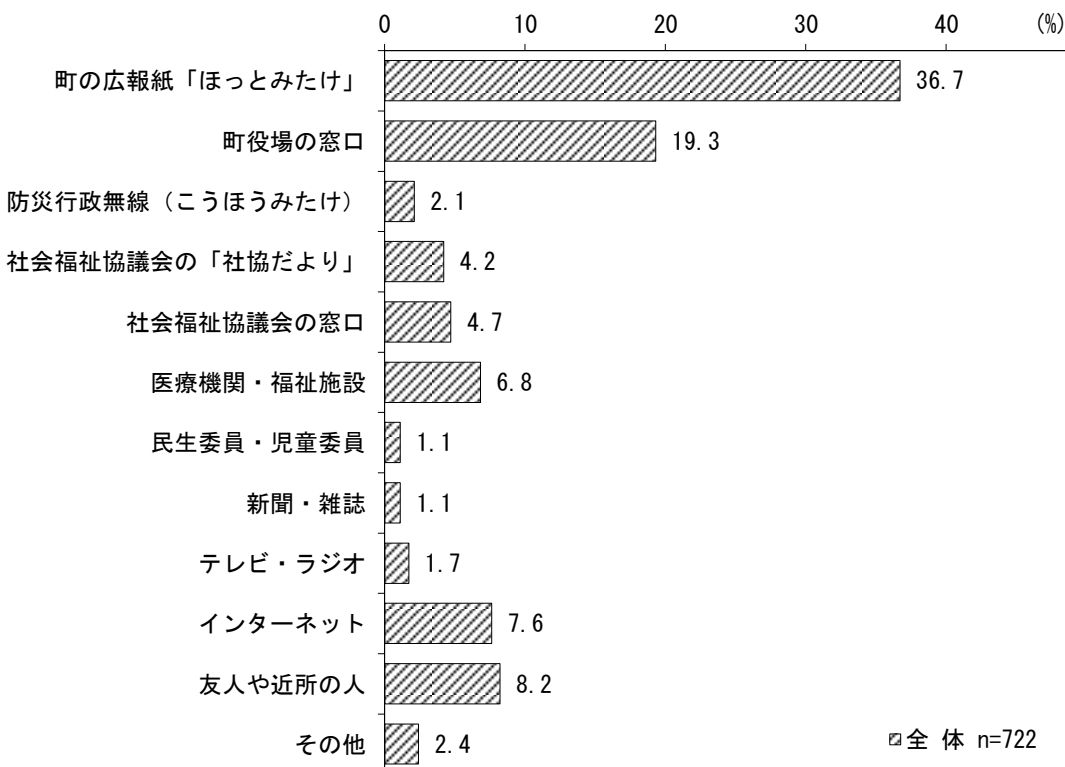
① 福祉サービスに関する情報の入手

○「必要な福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていますか」という設問では、「あまりできていない」が30.2%と最も高く、次いで「ほとんどできていない」が25.3%となっており、これらを合計した《できていない》が55.5%を占めています。「十分できている」と「おおむねできている」を合計した《できている》は18.4%となっています。

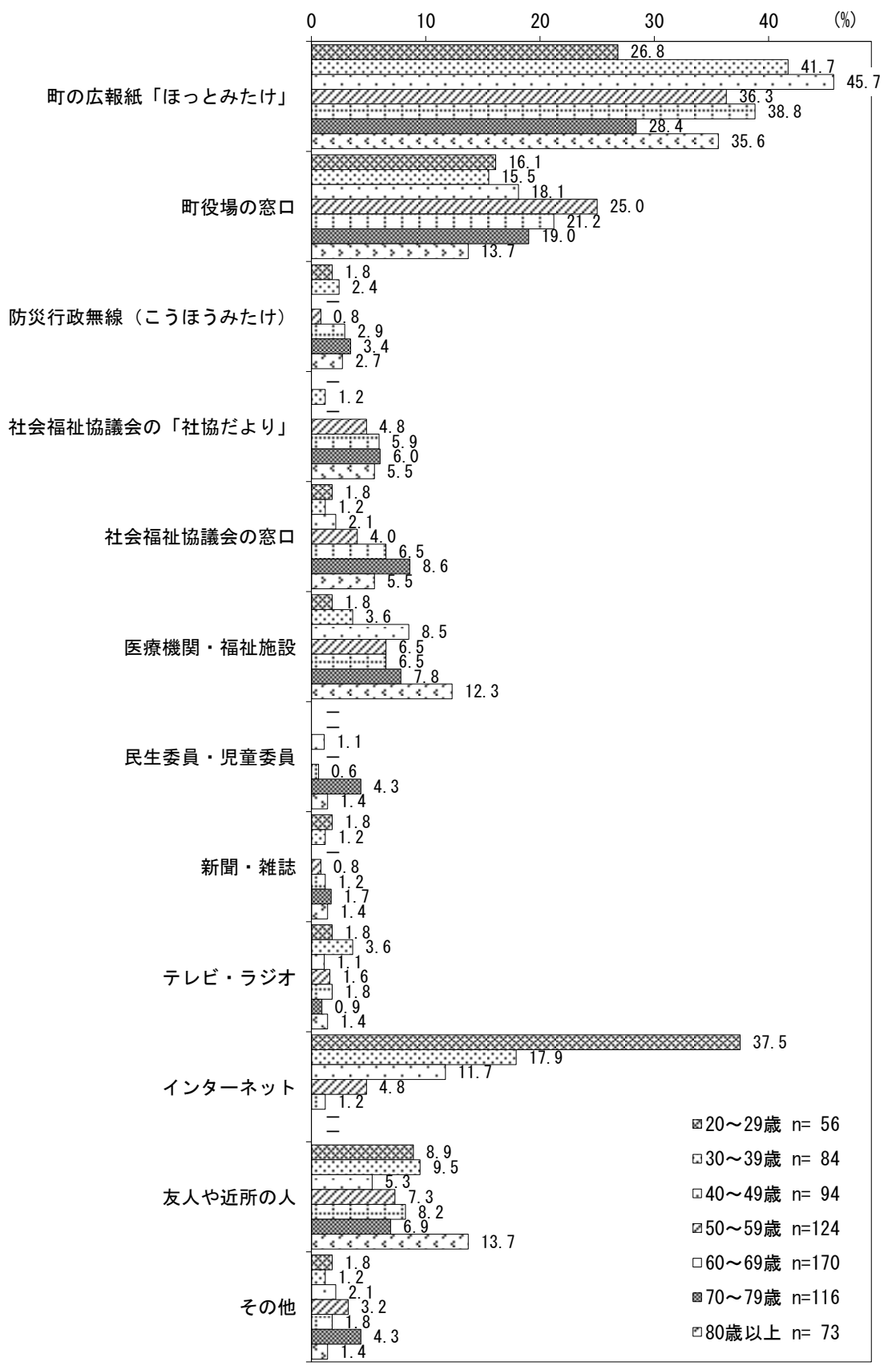


② 福祉サービスに関する情報の入手先

○「福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか」という設問では、「町の広報紙『ほっとみたけ』」が36.7%と最も高く、次いで「町役場の窓口」が19.3%、「友人や近所の人」が8.2%、「インターネット」が7.6%などとなっています。

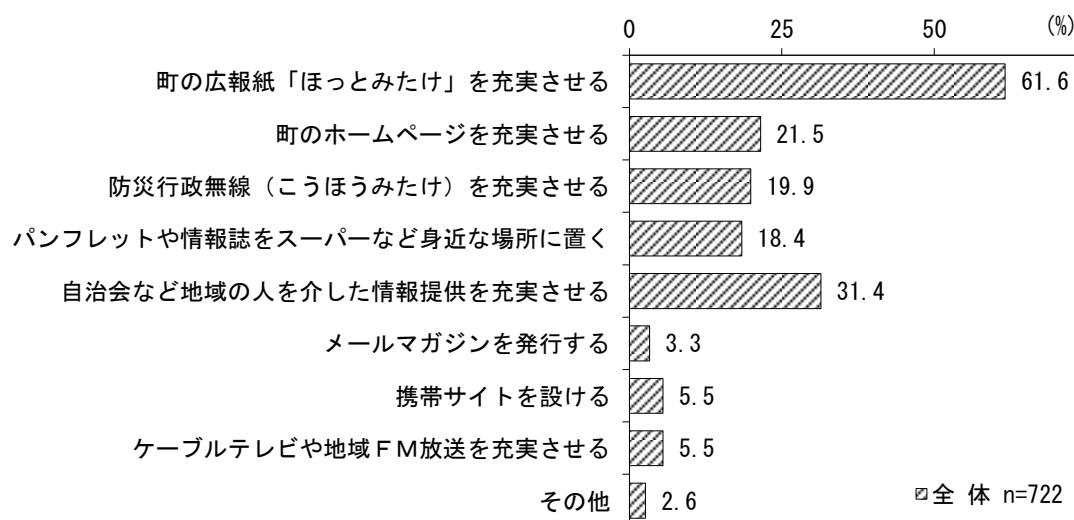


○年齢別にみると、20～29歳では「インターネット」が37.5%と最も高くなっています。また、80歳以上では「友人や近所の人」が13.7%と比較的高い率となっています。



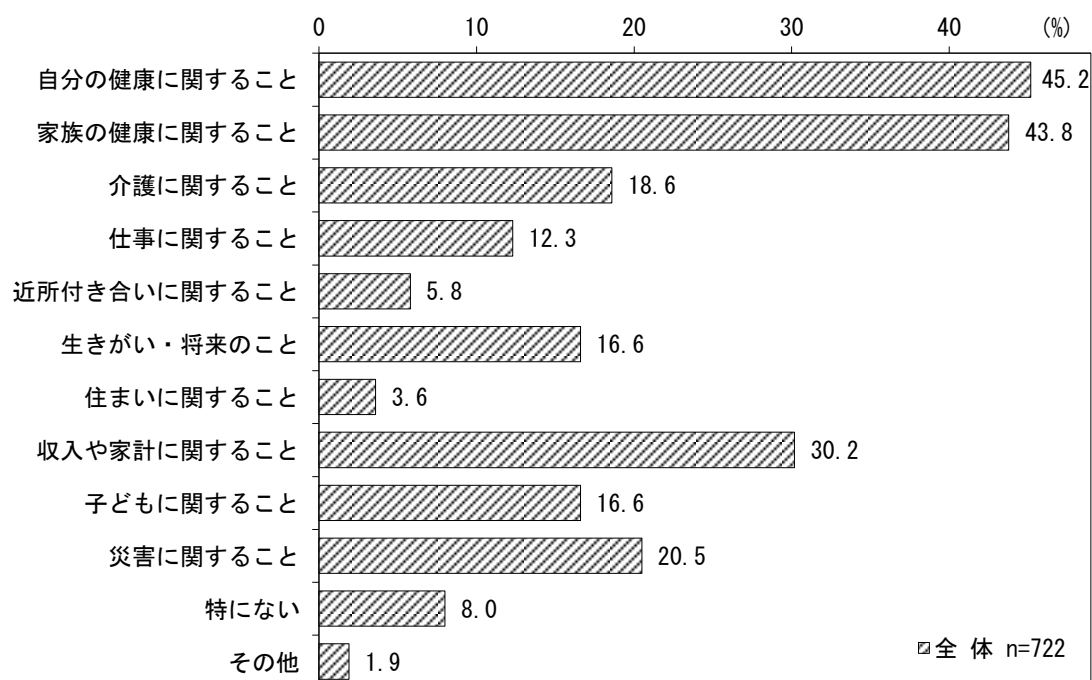
③ 福祉サービス情報の提供方法

○「町の福祉サービスに関する情報提供についてどのようにしたら必要な人に届くと思われますか」という設問に対しては、「町の広報紙『ほっとみたけ』を充実させる」が61.6%と突出していますが、次いで「自治会など地域の人を介した情報提供を充実させる」も31.4%と比較的高くなっています。

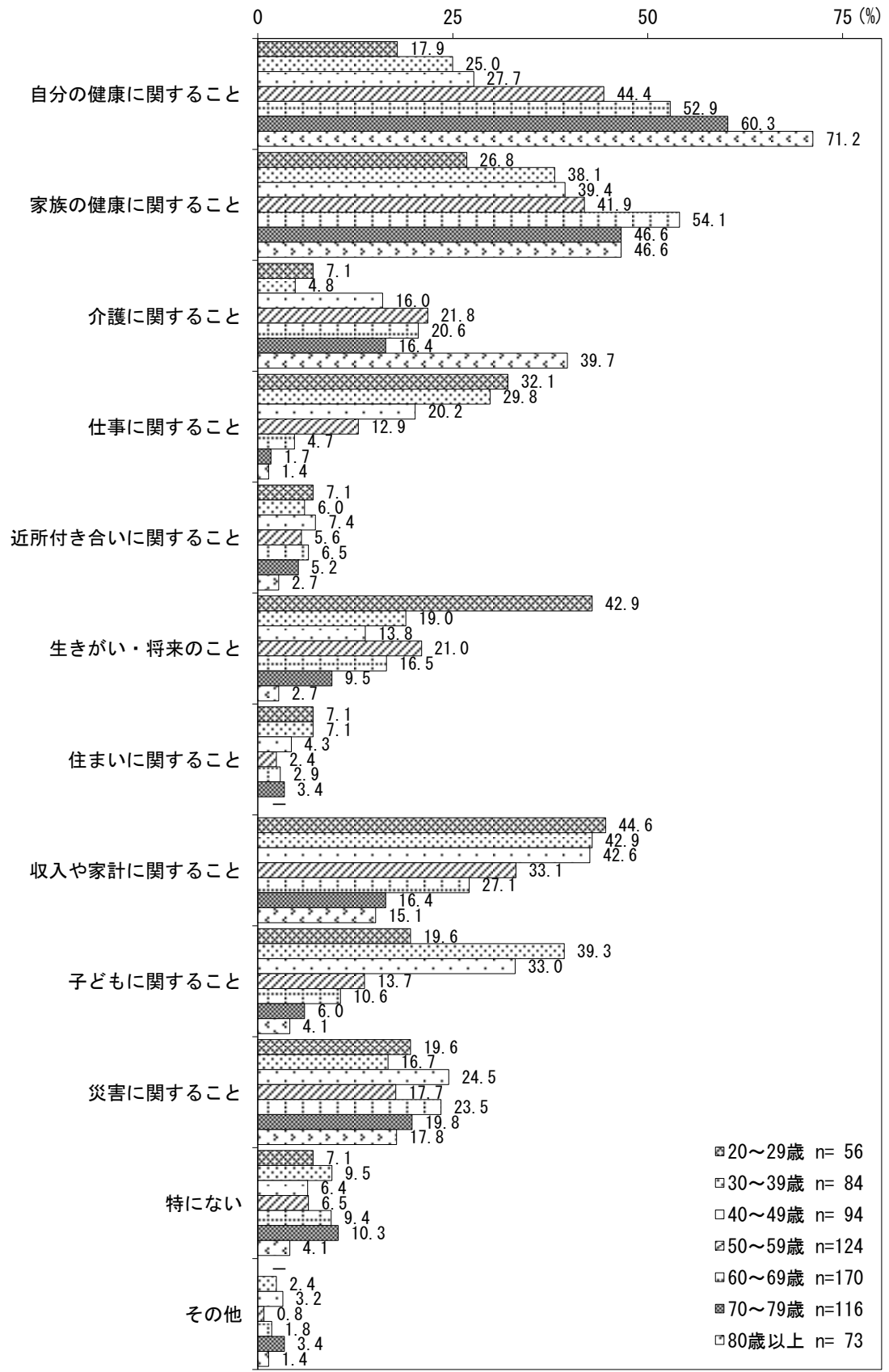


④ 悩みや不安

○「毎日の暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか」という設問では、「自分の健康に関すること」（45.2%）と「家族の健康に関すること」（43.8%）の2項目が高くなっています。

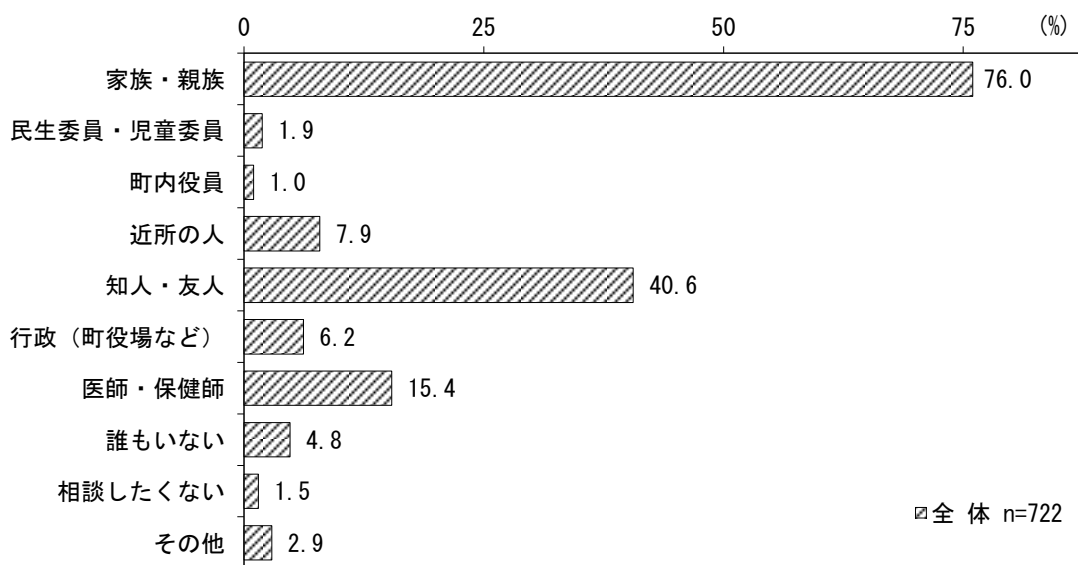


○年齢別にみると、50歳未満は「収入や家計に関すること」、50～59歳および70歳以上は「自分の健康に関すること」、60～69歳は「家族の健康に関すること」がそれぞれ最も高くなっています。



⑤ 悩みや不安の相談相手

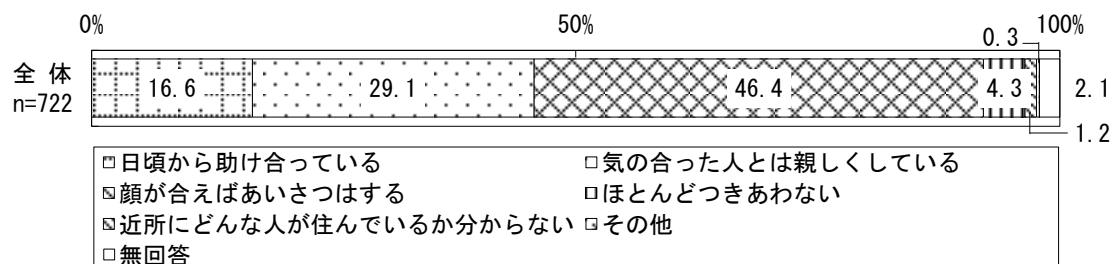
「悩みや不安について誰に（どこに）相談していますか」という設問では、「家族・親族」が76.0%と最も高く、次いで「知人・友人」が40.6%となっています。相談機関や専門機関では「医師・保健師」が15.4%ですが、その他の項目は10%未満です。なお、「誰もいない」が4.8%、「相談したくない」が1.5%あり、相談窓口の充実や地域における見守りも重要な課題となっています。



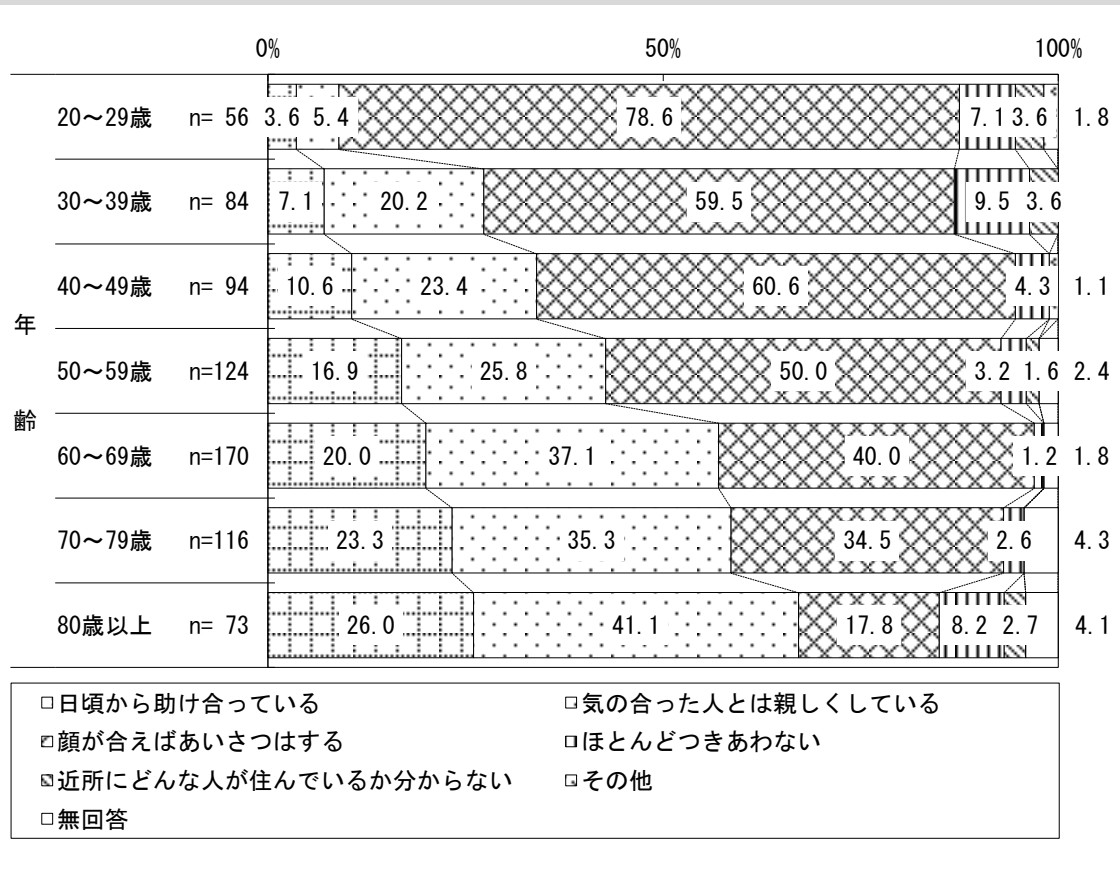
(4) 地域活動・ボランティア活動

① 近所付き合いの程度

○「近所の人とは、どの程度付き合いをしていますか」という設問では、「顔が合えばあいさつはする」が46.4%と最も高く、次いで「気の合った人とは親しくしている」が29.1%となっています。

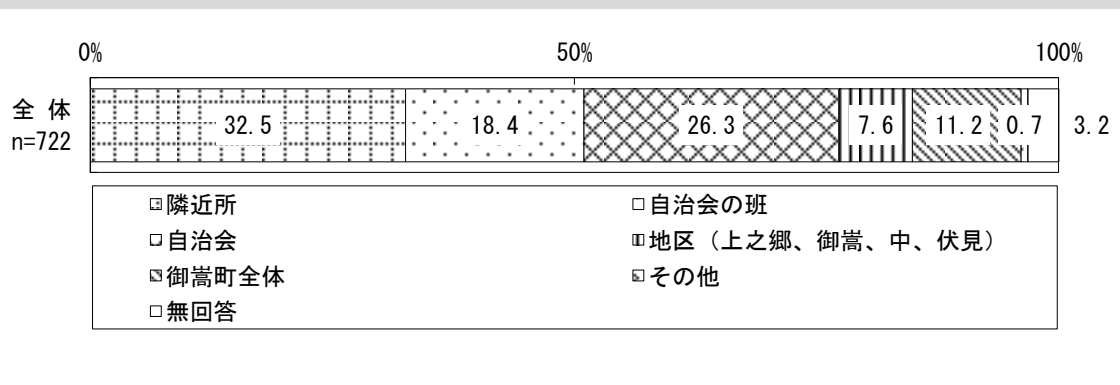


○年齢別にみると、若年齢層ほど付き合いが浅く、年齢とともに付き合いが深くなる傾向が読みとれます。



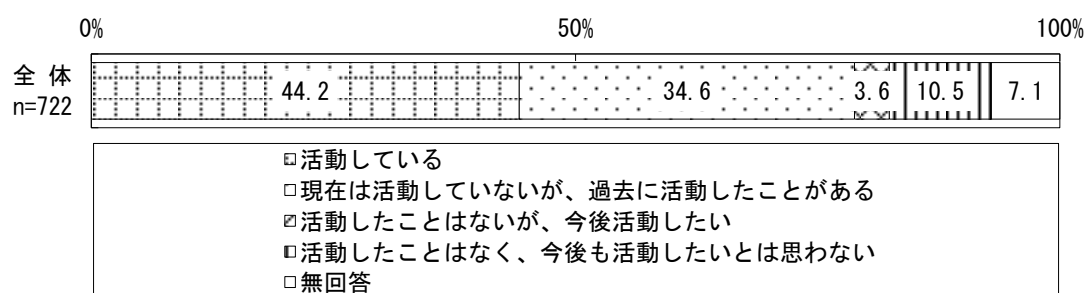
② 「地域」の範囲

○「ふだんの生活において「地域で支え合う・助け合う」ということを意識した場合、あなたの考える「地域」とは、次のどの範囲ですか」という設問では、「隣近所」が32.5%と最も高く、次いで「自治会」（26.3%）、「自治会の班」（18.4%）などの順となっています。



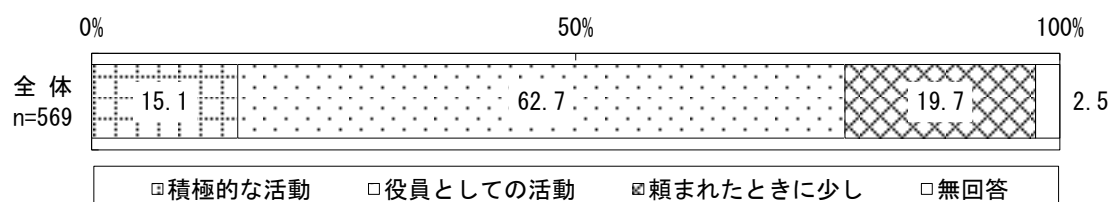
③ 地域活動への参加状況

○「あなた（あなたの世帯）は、自治会や子ども会など地域活動をしていますか」という設問では、「活動している」が44.2%で最も高く、次いで「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」が34.6%となっています。「活動したことはなく、今後も活動したいと思わない」が10%以上あります。平成19年の調査との比較では、「活動している」が大幅に高くなっています。



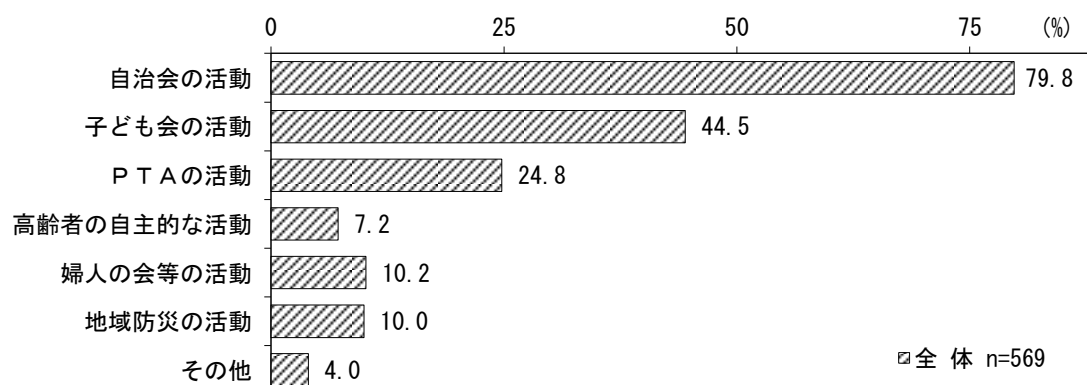
④ 地域活動の程度

○地域活動について、「活動している」または「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた人に対する「どの程度の活動ですか」という設問では、「役員としての活動」が62.7%を占めています。



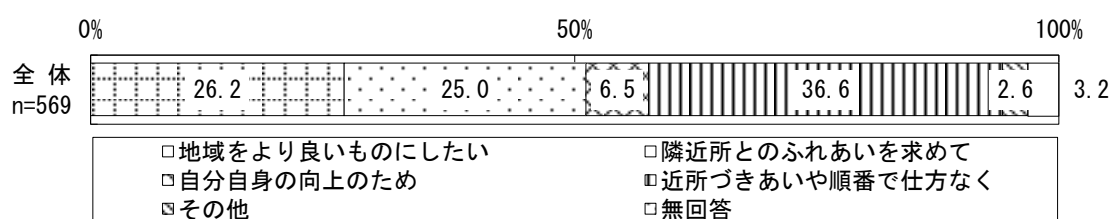
⑤ 地域活動の内容

○地域活動について、「活動している」または「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた人に対する「どんな活動ですか」という設問では、「自治会の活動」が79.8%を占めています。



⑥ 地域活動の目的

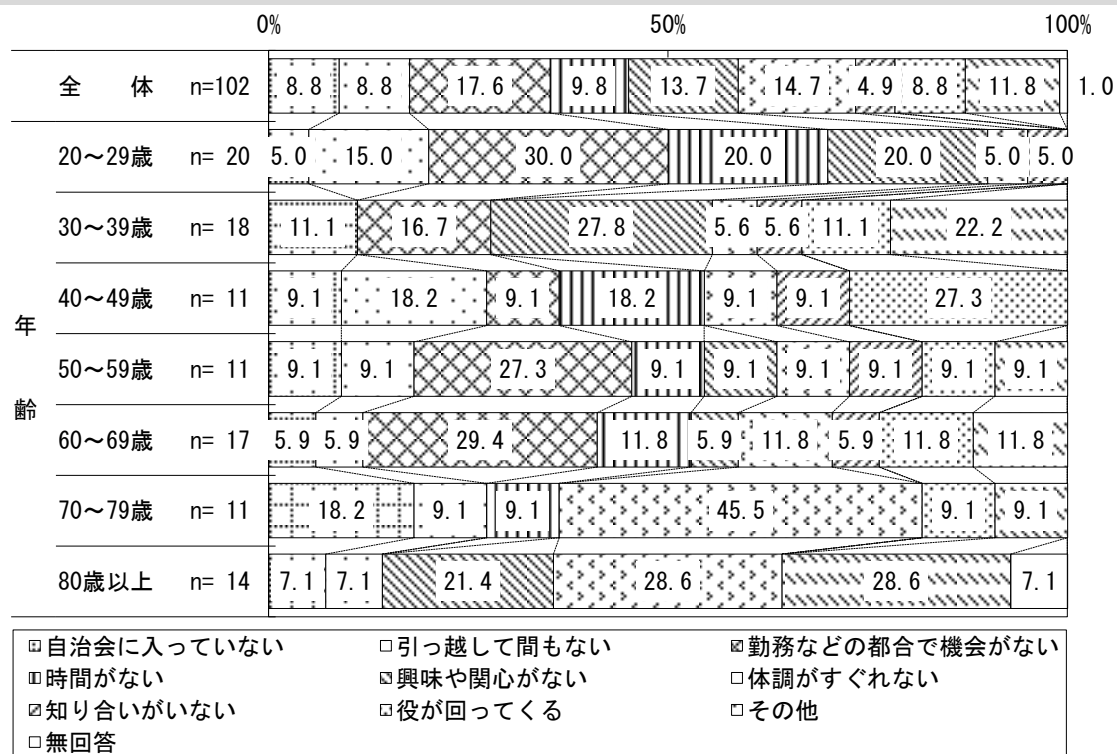
○地域活動について、「活動している」または「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた人に対する「活動の目的は何ですか」という設問では、「近所づきあいや順番で仕方なく」が36.6%と最も高くなっています。



⑦ 地域活動をしていない理由

○地域活動について、「活動したことはないが、今後活動したい」または「活動したことはなく、今後も活動したいとは思わない」と答えた人に対する「活動していない理由・活動したいと思わない理由は何ですか」という設問では、「勤務などの都合で機会がない」が17.6%と最も高く、次いで「体調がすぐれない」(14.7%)、「興味や関心がない」(13.7%)などとなっています。

○年齢別にみると、若い世代は「勤務などの都合で機会がない」「時間がない」「興味や関心がない」などが高いのに対し、年齢が高くなるにしたがい「体調がすぐれない」などが高くなってきます。

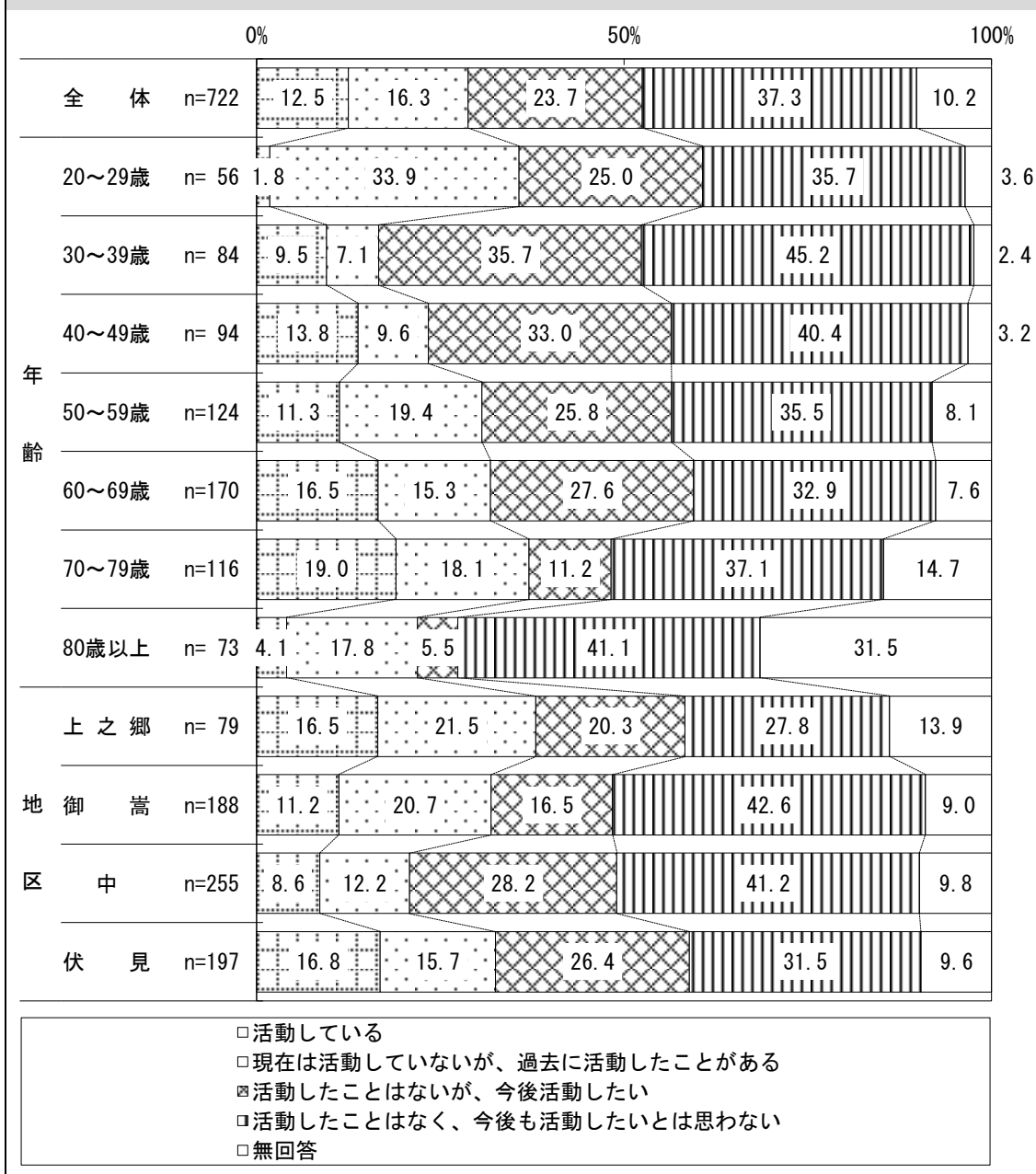


⑧ ボランティア活動への参加状況

○「ボランティア活動をしていますか」という設問では、「活動したことはなく、今後も活動したいと思わない」が37.3%と最も高く、次いで「活動したことはないが、今後活動したい」が23.7%となっています。「活動している」は12.5%でした。

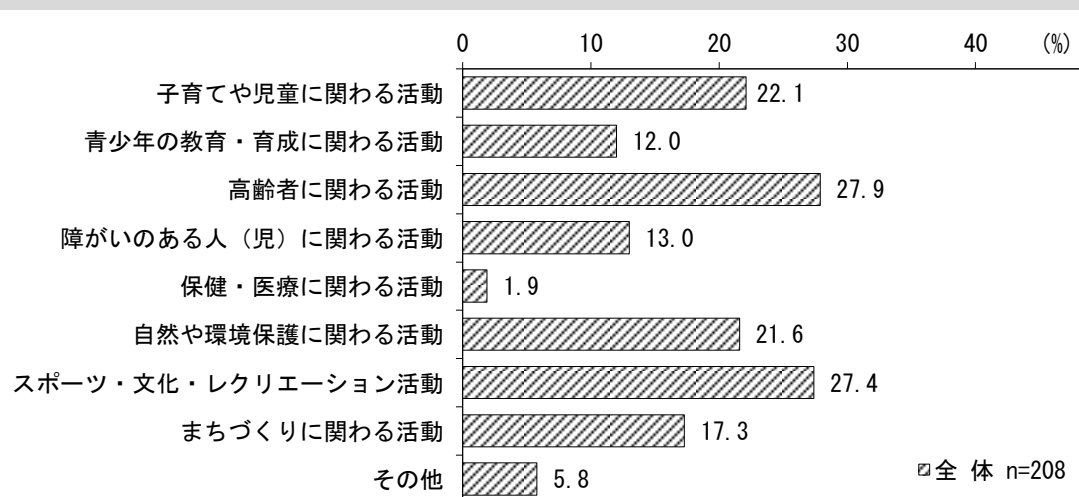
○年齢別にみると、「活動している」は70～79歳で19.0%、60～69歳で16.5%と比較的高い率となっており、ボランティア活動の担い手の高齢化がうかがわれます。

○地区別にみると、上之郷地区と伏見地区の「活動している」が比較的高くなっています。



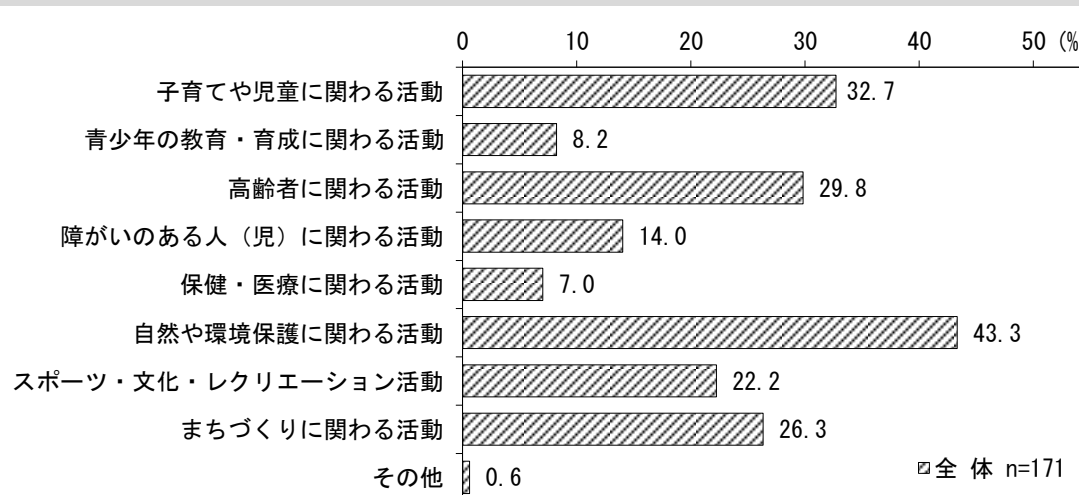
⑨ ボランティア活動の内容

○ボランティア活動について、「活動している」または「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた人に対する「どのようなボランティア活動ですか」という設問では、「高齢者に関わる活動」が27.9%と最も高く、次いで「スポーツ・文化・レクリエーション活動」（27.4%）、「子育てや育児に関わる活動」（22.1%）などとなっています。

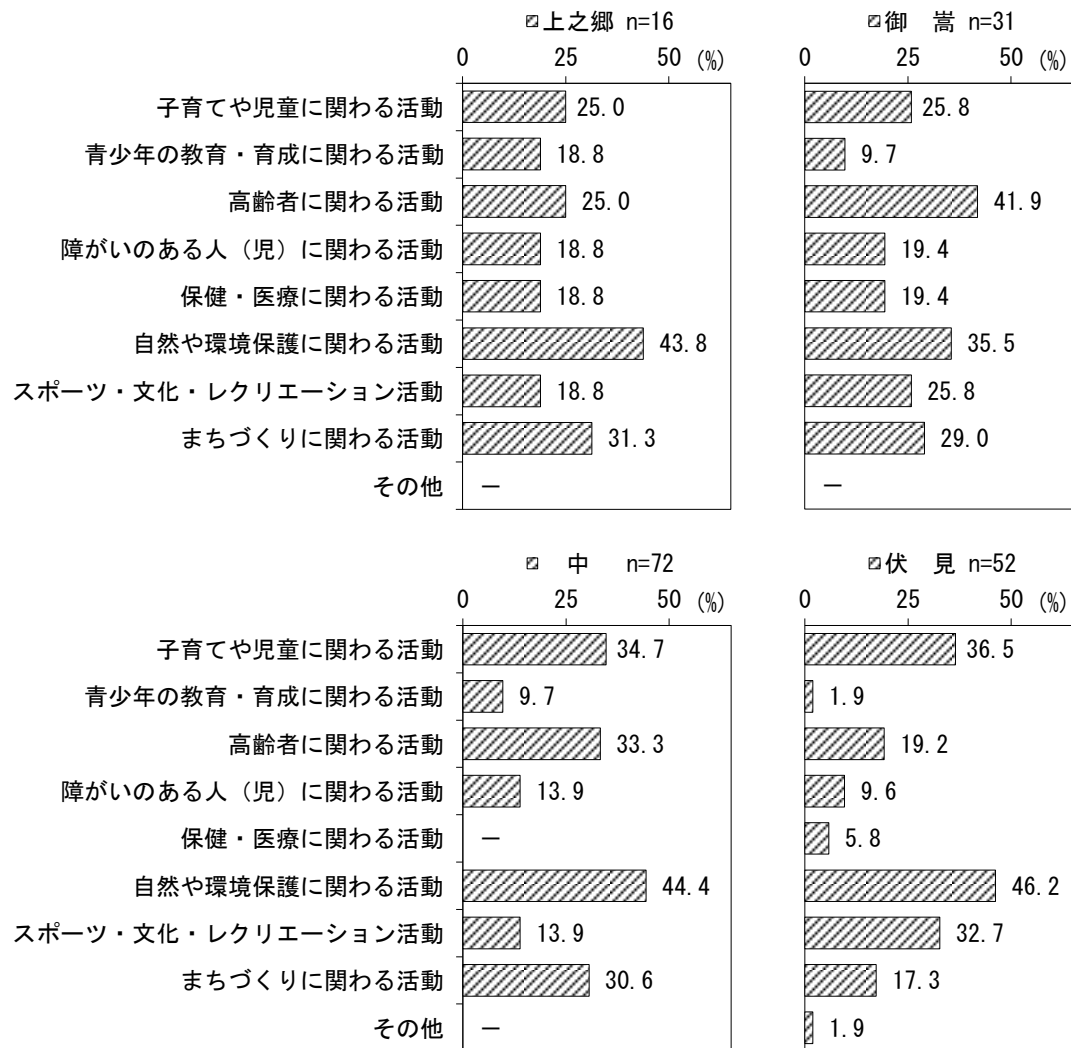


⑩ 参加したいボランティア活動の内容

○ボランティア活動について、「活動したことはないが、今後活動したい」と答えた人に対する「どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか」という設問では、「自然や環境保護に関わる活動」が43.3%と最も高く、次いで「子育てや児童に関わる活動」（32.7%）、「高齢者に関わる活動」（29.8%）、「まちづくりに関わる活動」（26.3%）、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」（22.2%）、などとなっています。

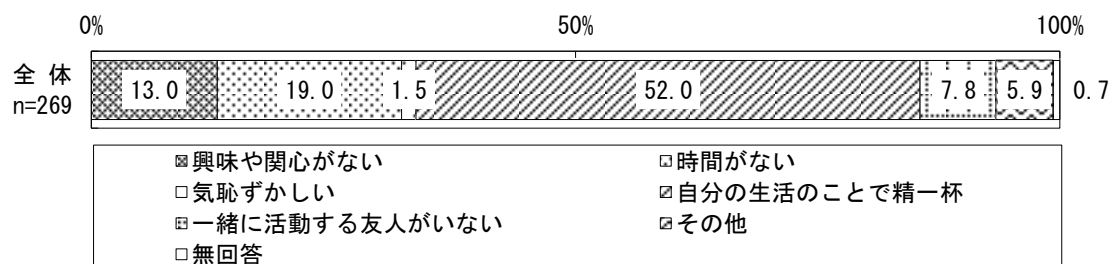


○地区別にみると、御嵩地区では「高齢者に関わる活動」、他の地区では「自然や環境保護に関わる活動」が最も高くなっています。



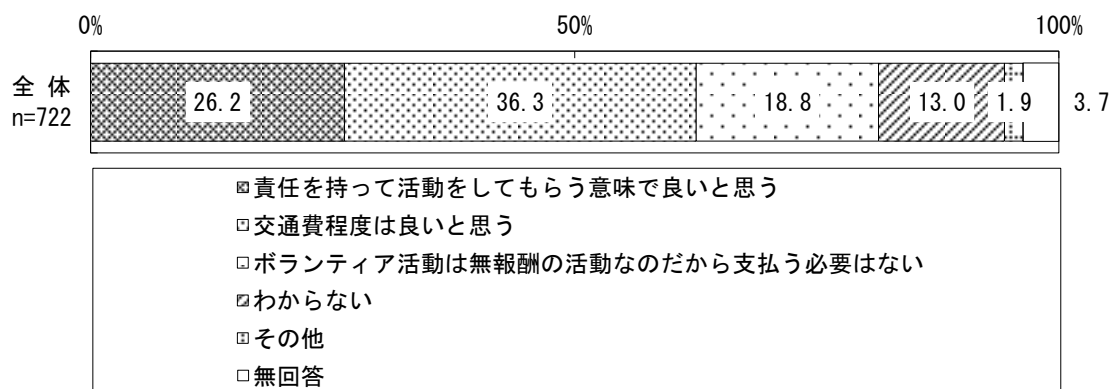
⑪ ボランティア活動をしたくない理由

○ボランティア活動について、「活動したことはなく、今後も活動したいとは思わない」と答えた人に対する「活動したくない理由は何ですか」という設問では、「自分の生活のことで精一杯」が52.0%を占めており、次いで「時間がない」が19.0%となっています。



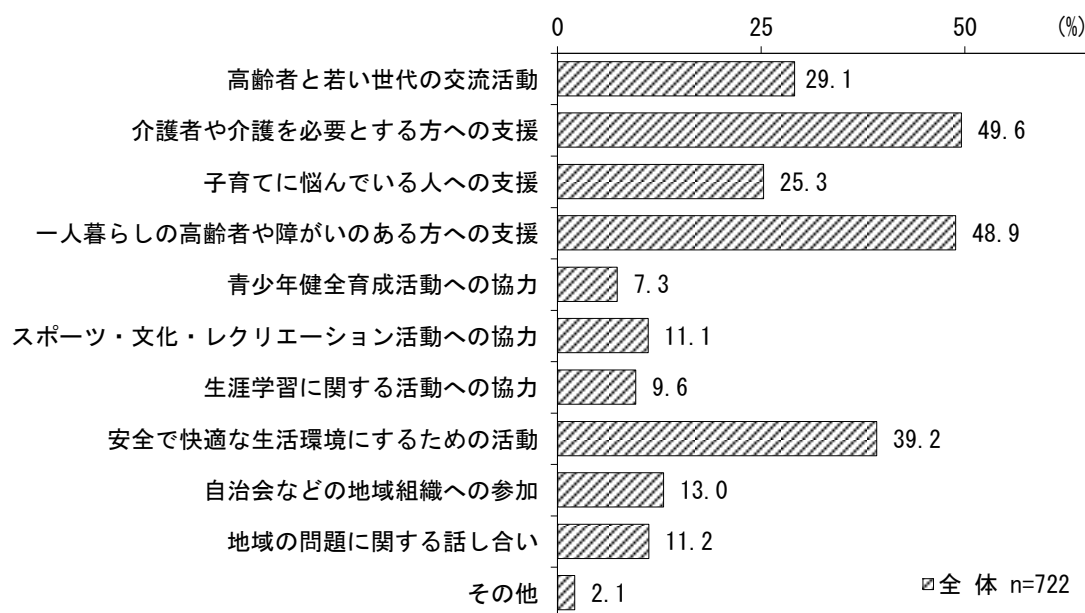
⑫ ボランティア活動の報酬について

○「ボランティアにその活動の対価として報酬を支給することについて、あなたはどのようにお考えですか」という設問では、「交通費程度は良いと思う」が36.3%と最も高く、次いで「責任を持って活動をしてもらう意味で良いと思う」が26.2%となっており、有償ボランティアに対し肯定的な考えの人が60%を超えています。

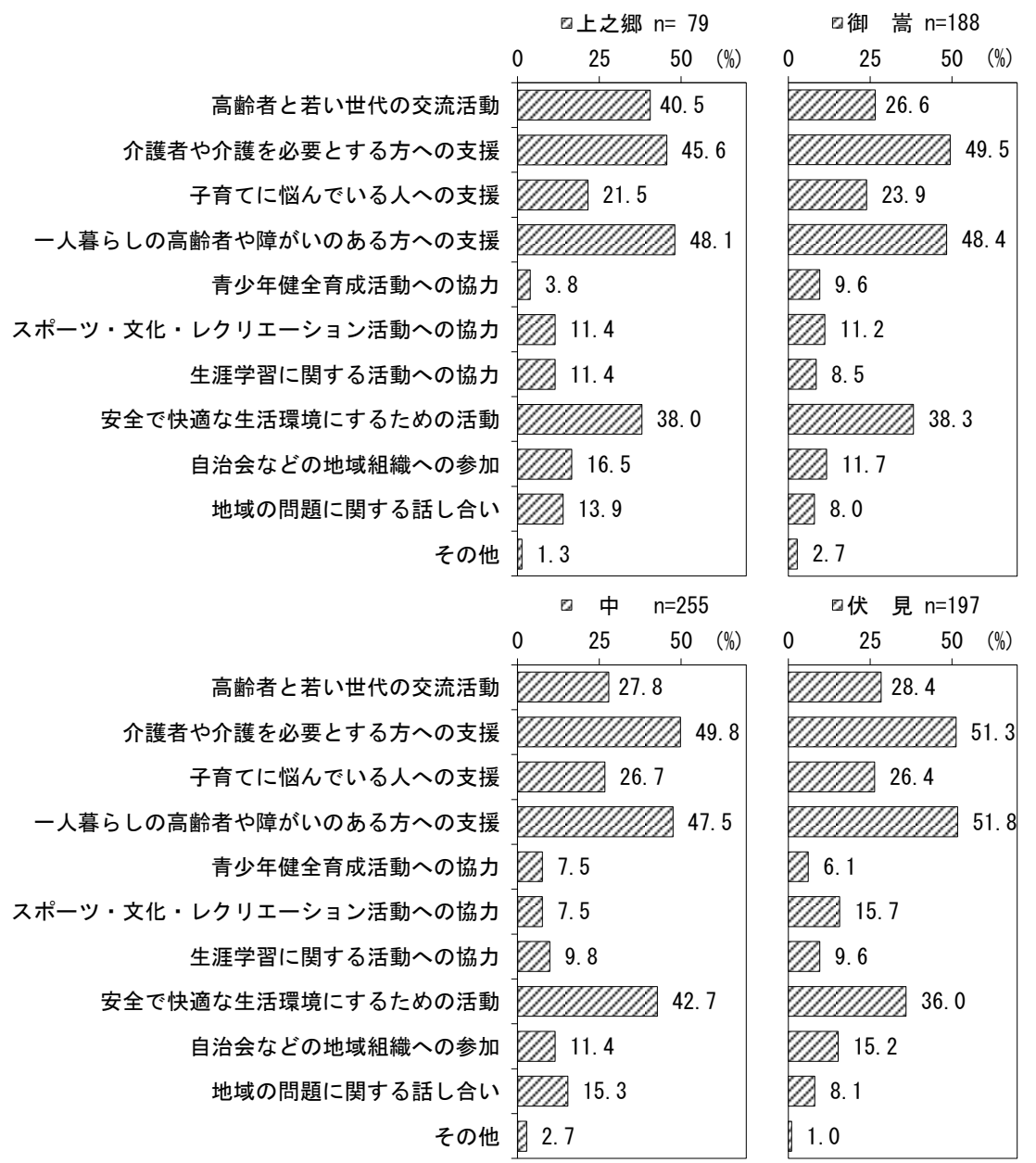


⑬ 住みよいまちづくりを進めるうえで取り組むべき地域活動

○「今後、住みよいまちづくりを進めるうえで、地域として、どのような活動に取り組むべきだと思いますか」という設問では、「介護者や介護を必要とする方への支援」(49.6%)と「一人暮らしの高齢者や障がいのある方への支援」(48.9%)の2項目が40%を超える高い率となっています。

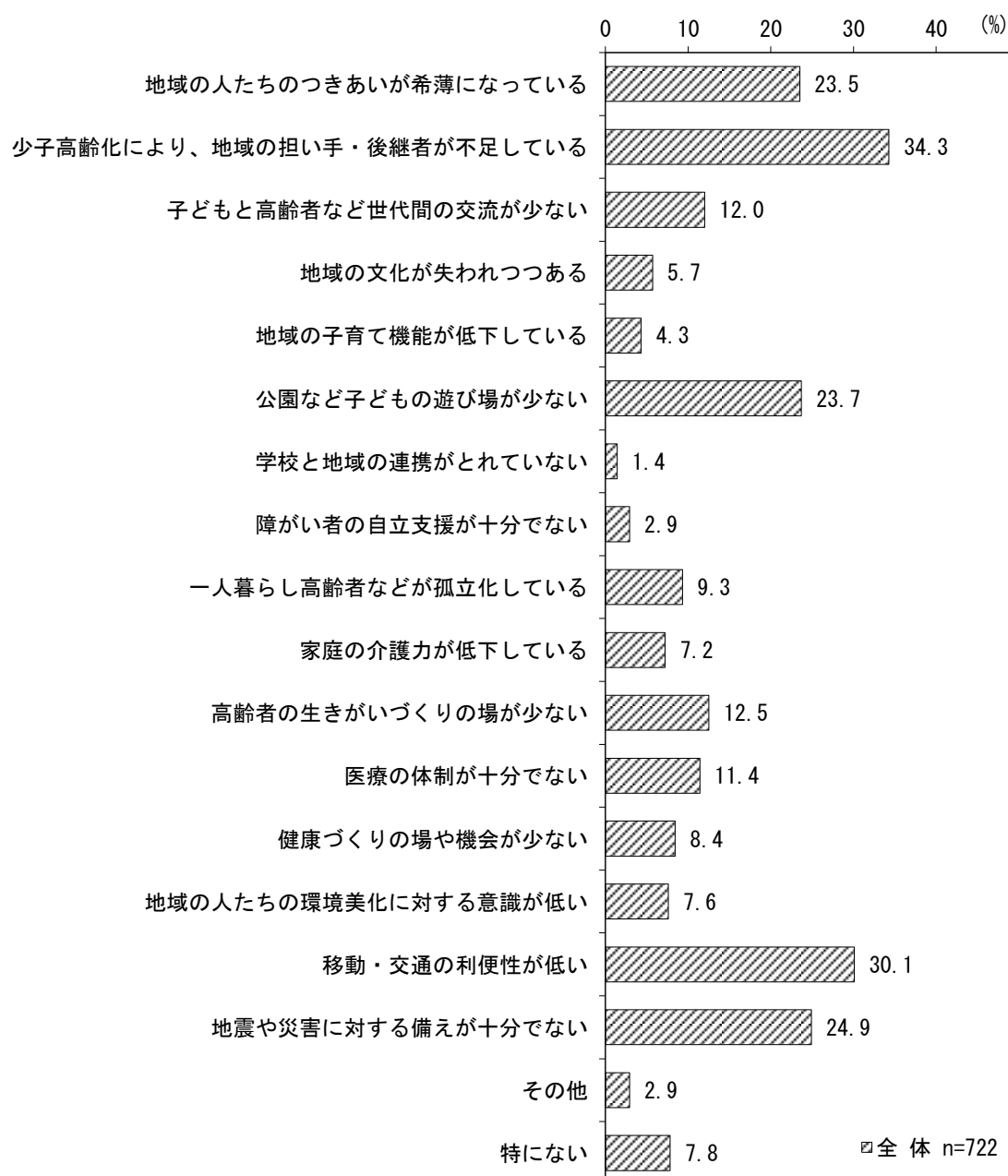


○地区別にみると、上之郷地区において「高齢者と若い世代の交流活動」が、他の地区に比べ高くなっているのが特徴的です。

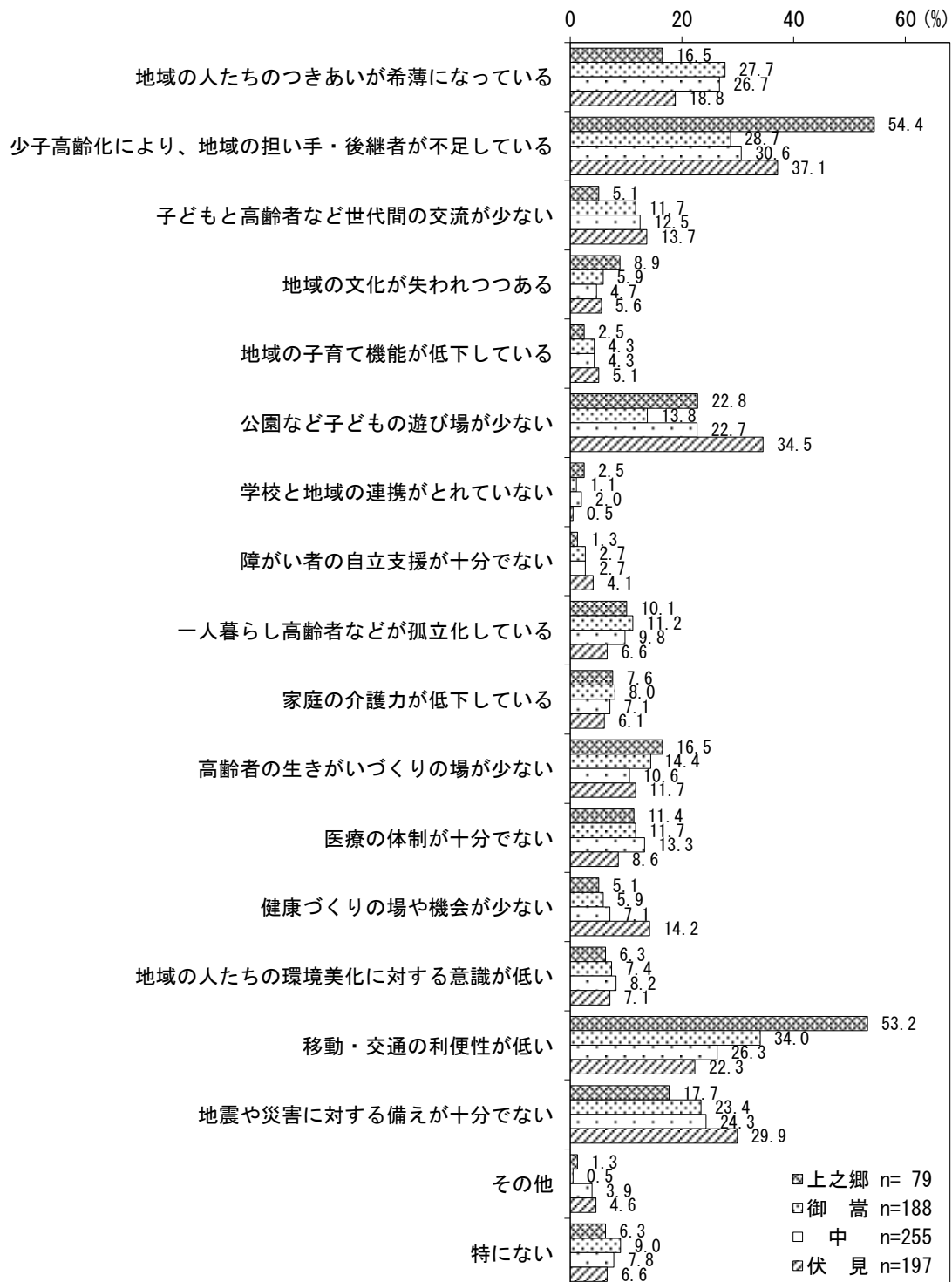


② 地域の課題

○「あなたの住んでいる地域には、どのような課題や問題があると感じていますか」という設問では、「少子高齢化により、地域の担い手・後継者が不足している」が34.3%と最も高く、次いで「移動・交通の利便性が低い」(30.1%)、「地震や災害に対する備えが十分でない」(24.9%)、「公園など子どもの遊び場が少ない」(23.7%)などの順となっています。



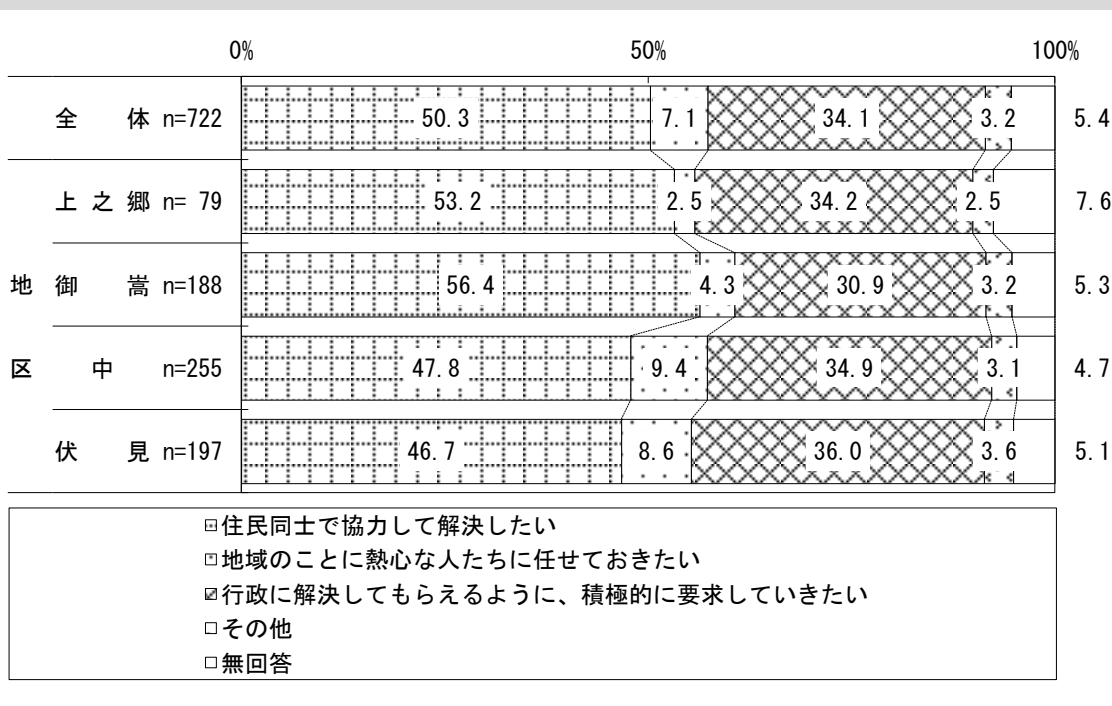
○地域別にみると、上之郷地区では、「少子高齢化により、地域の担い手・後継者が不足している」および「移動・交通の利便性が低い」が50%を超える高い率となっています。御嵩地区では「移動・交通の利便性が低い」、中地区では「少子高齢化により、地域の担い手・後継者が不足している」、伏見地区では「少子高齢化により、地域の担い手・後継者が不足している」および「公園など子どもの遊び場が少ない」が30%を超えています。



③ 地域の課題の解決方法

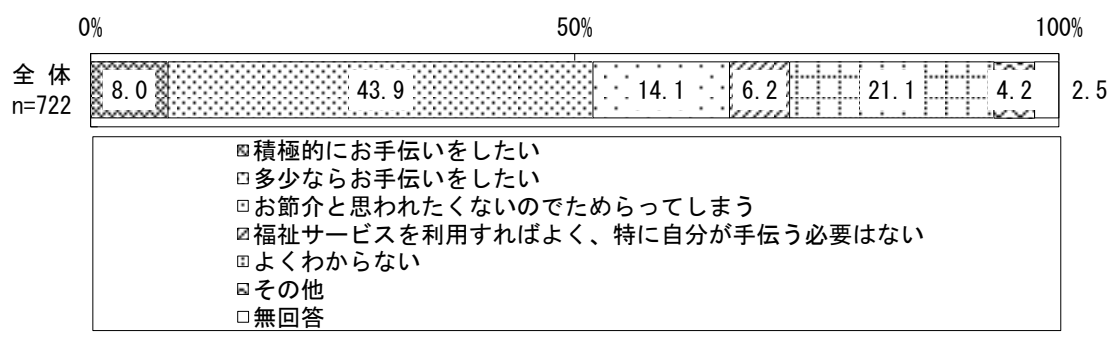
○「住んでいる地域で、問題や困りごとが生じた場合、どのような方法で解決するのがよいと思いますか」という設問では、「住民同士で協力して解決したい」が50.3%、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が34.1%と、〈住民主体型〉が〈行政依存型〉を大きく上回っています。

○地区別にみると、中地区および伏見地区に比べ御嵩地区および上之郷地区の〈住民主体型〉が高くなっているのが特徴的です。



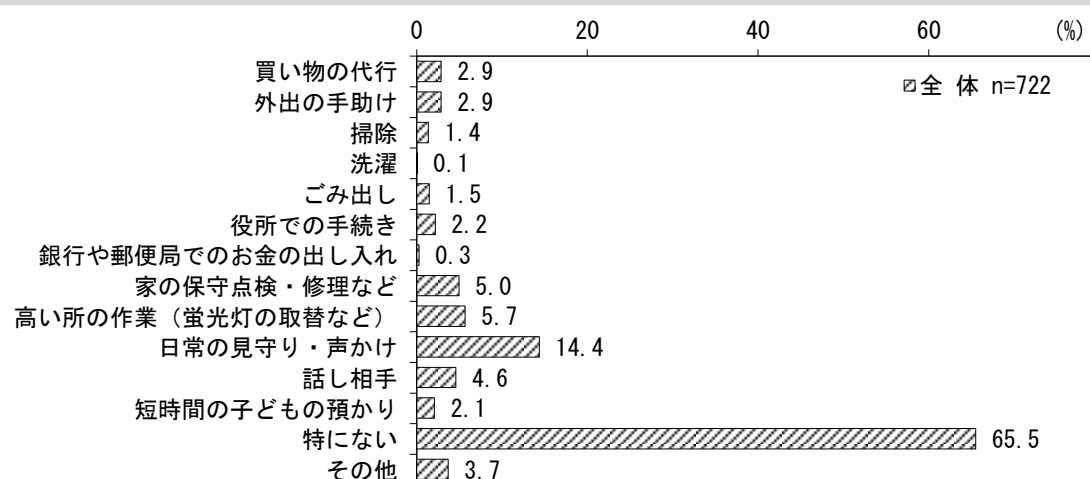
④ 困っている世帯への対応

○「あなたのご近所で、一人暮らしの高齢者・障がい者などで困っている世帯があったら、お手伝いをしますか」という設問では、「多少ならお手伝いをしたい」が43.9%と最も高く、「積極的にお手伝いをしたい」は8.0%となっており、両者を合わせると51.9%となります。多くの人が、住民同士の支え合いが必要であると感じていることがわかります。

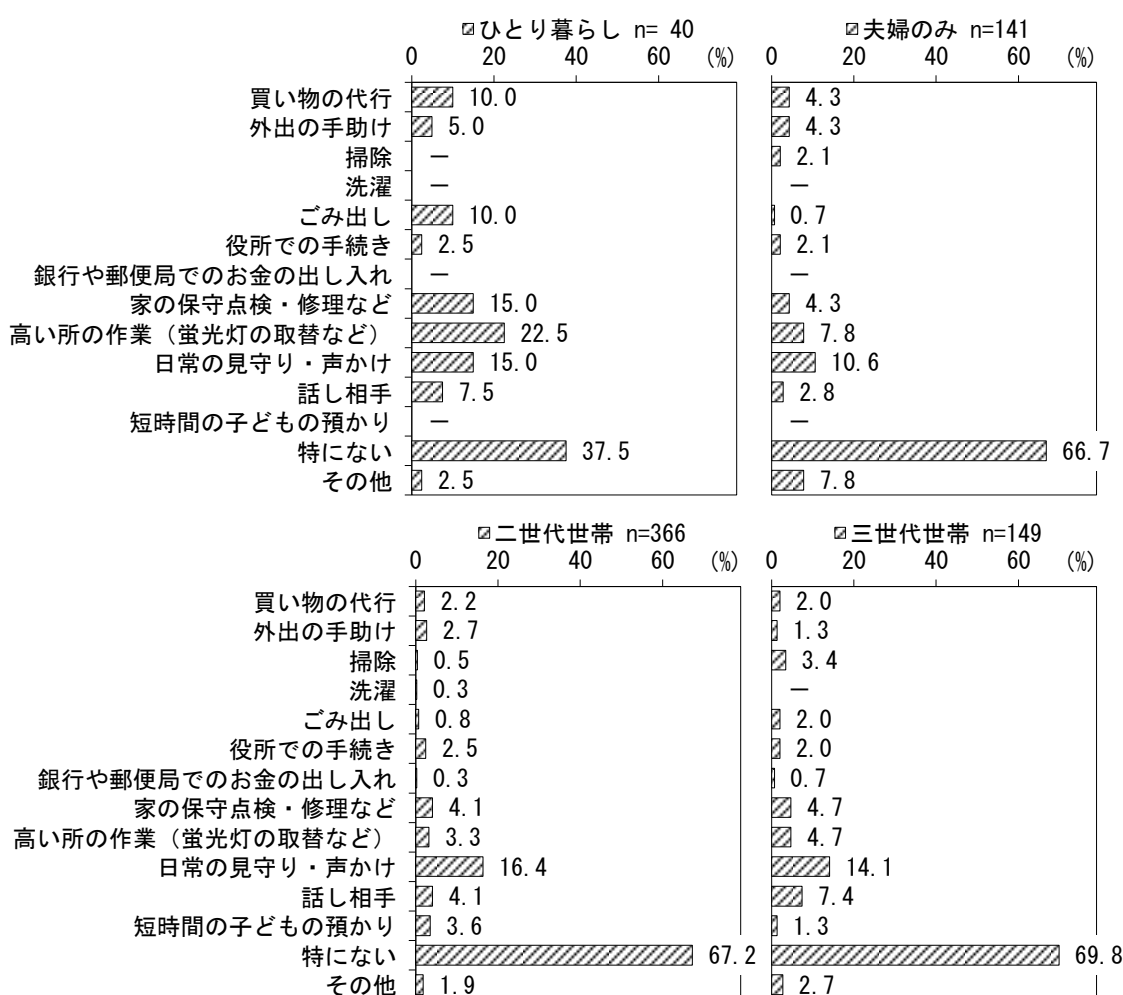


⑤ 手助けしてもらいたいこと

○「ご近所や地域の人に手助けしてもらいたいことはありますか」という設問では、当然のことながら、「特にない」が65.5%と圧倒的に高い率を占めています。次いで「日常の見守り・声かけ」が14.4%となっています。

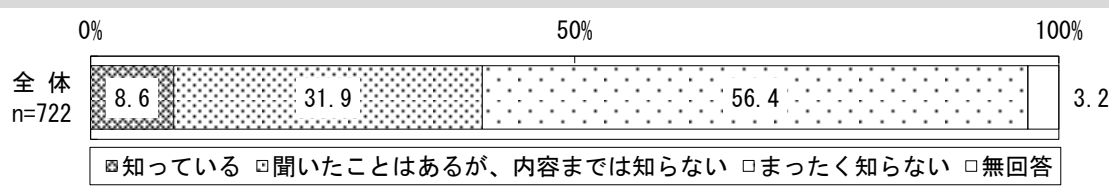


○世帯別にみると、「家の保守点検・修理など」および「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」は、一人暮らしが比較的高い率となっています。



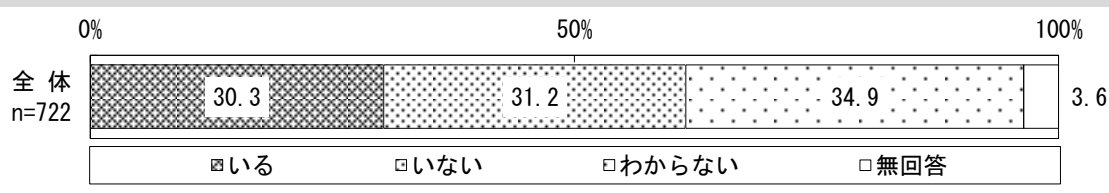
⑥ 災害時要援護者台帳制度の周知度

○「地震などの災害発生時に、家族などの援助が困難で助けを必要とする災害時要援護者の台帳の整備を行い、災害発生時に支援が得られる仕組みづくりに取り組んでいます。あなたはこの制度をご存知ですか」という設問では、「まったく知らない」が56.4%を占めており、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が31.9%、「知っている」はわずか8.6%でした。今後も制度の周知に努める必要があります。



⑦ 災害時要援護者の有無

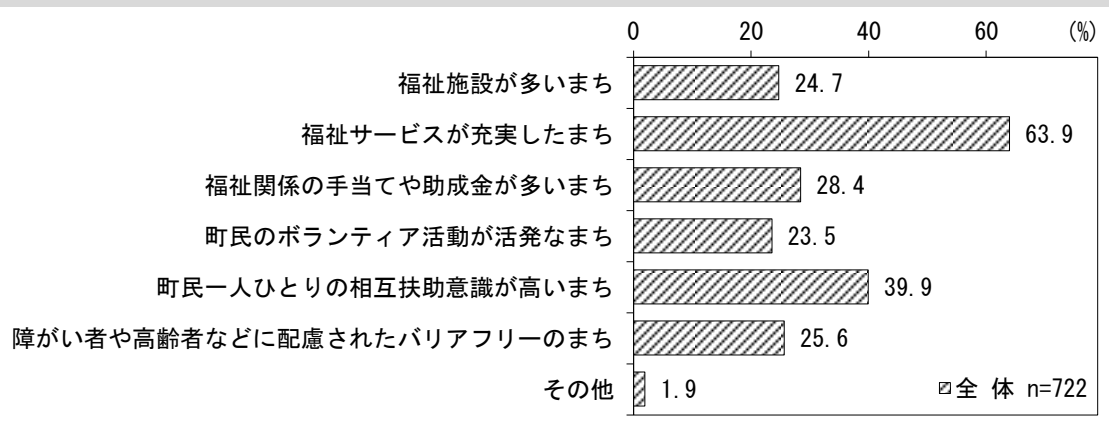
○「あなたの周りには、災害時要援護者はいらっしゃいますか」という設問では、「いる」が30.3%、「いない」が31.2%ですが、「わからない」という回答が34.9%あります。



(6) 地域福祉を推進するために

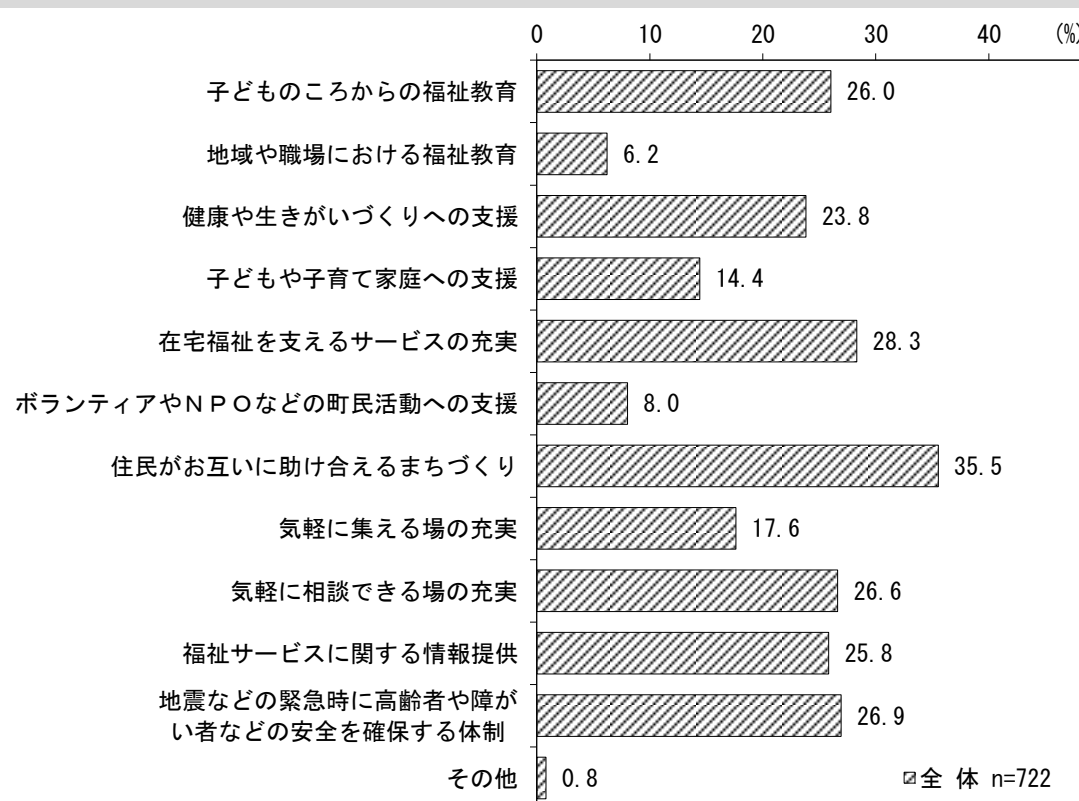
① 福祉が充実しているまちとは

○「福祉が充実しているまちとはどのようなまちだと思いますか」という設問では、「福祉サービスが充実したまち」が63.9%と最も高く、次いで「町民一人ひとりの相互扶助意識が高いまち」(39.9%)の順となっています。



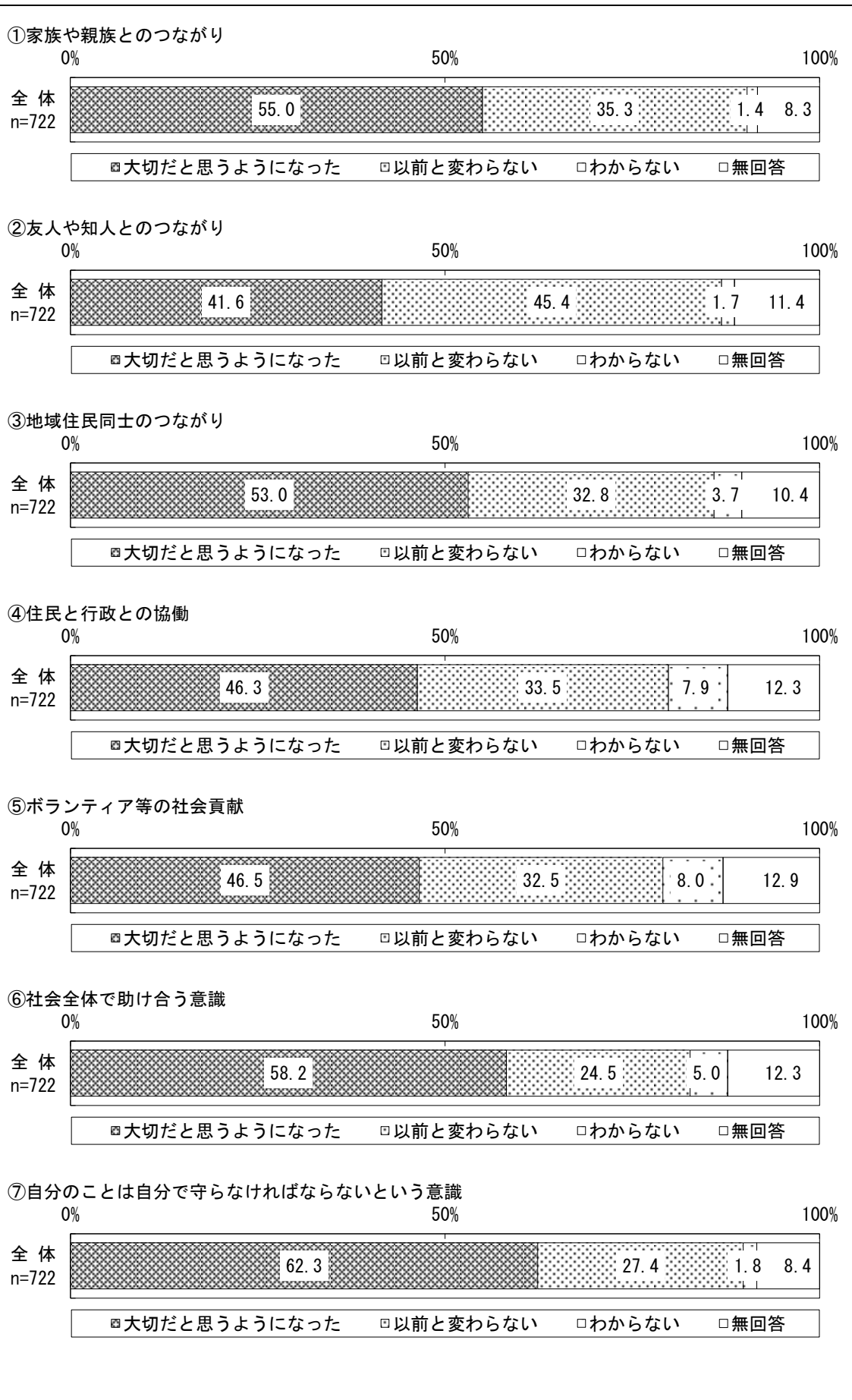
② これからの福祉は何を重点にすべきか

○「これからの福祉は、何を重点にすべきと思いますか」という設問では、「住民がお互いに助け合えるまちづくり」が35.5%と最も高くなっています。次いで「在宅福祉を支えるサービスの充実」が28.3%となっており、住民同士の支え合いと福祉サービスの充実により住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせる体制づくりが重要と多くの住民が考えていることがわかります。



③ 東日本大震災以前と現在で変わったこと

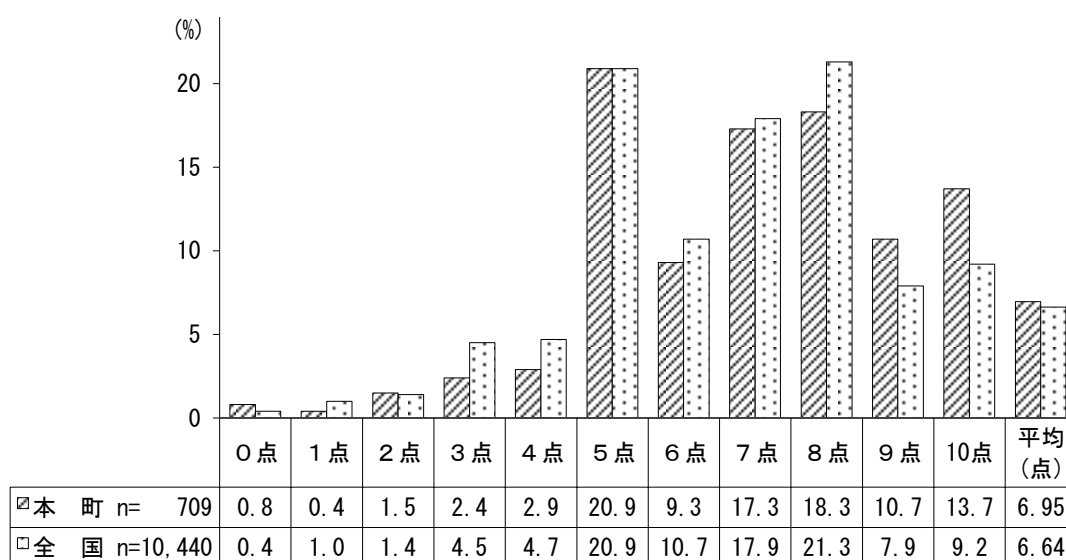
○「東日本大震災以前と現在を比べて、次の①～⑦の項目について考え方が変わりましたか」という設問では、〈②友人や知人とのつながり〉は「以前と変わらない」が高くなっていますが、それ以外の6項目については「大切だと思ふようになった」が高くなっています。特に〈⑦自分のことは自分で守らなければならないという意識〉は62.3%、〈⑥社会全体で助け合う意識〉は58.2%、〈①家族や親族とのつながり〉は55.0%、〈③地域住民同士のつながり〉が53.0%となっており、多くの人が東日本大震災を機に自助と共助の意識を強く意識するようになったことがわかります。



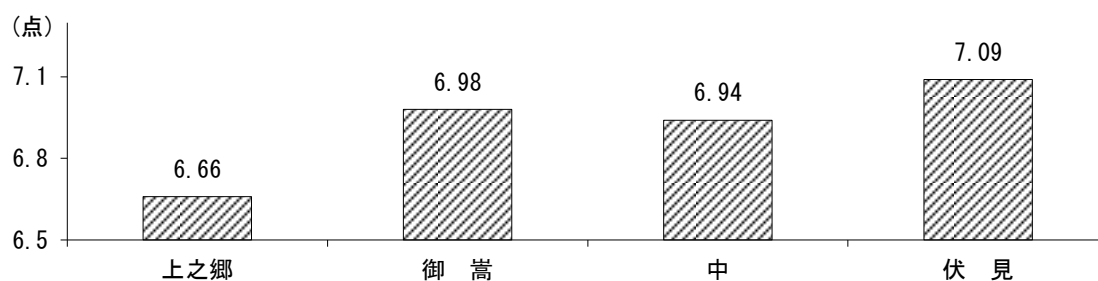
(7) 幸福感について

○「現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という設問では、5点と回答した人が20.9%と最も高く、次いで8点が18.3%、7点が17.3%の順となっています。5～8点の間に50%以上の人が入っており、平均値は6.95点です。

○国の調査結果と比較すると、本町は9点以上と回答した人の割合は高く、平均値も国より0.31点高くなっています。



○幸福感の平均値を地区別にみると、伏見地区が7.09点と最も高く、次いで御嵩地区(6.98点)、中地区(6.94点)、上之郷地区(6.66点)の順となっています。



2 地区懇談会のまとめ

— 地区懇談会の概要 —

御嵩町地域福祉計画の見直しにあたって、計画の基本理念である「ふれあい 支えあいによる 安心して暮らせるまちづくり」について考えていただくために、地区懇談会を開催しました。

地区懇談会では、冒頭の事務局説明の後、参加者には1グループ10人程度に分かれていただき、住民のみなさんが日ごろ感じている地域の課題やその解決策を話し合っていたりグループワークを実施しました。

グループワーク終了後には、グループワークで出された地域の課題、今後における要望、地域を良くしていくためのアイデアや提案などを各グループの代表者に発表していただき、参加者全員で共有しました。

各地区の開催状況は次のとおりです。

◎ 開催状況

地 区	開催日	開始時刻	会 場	出席人数
上之郷	8月6日(火)	午後7時30分～	上之郷公民館	26
御 嵩	8月5日(月)		役場北庁舎	33
中	8月8日(木)		中公民館	33
伏 見	8月9日(金)		伏見公民館	39

◎ タイムテーブル

時 刻	内 容
19:10	会場受付開始
19:30	地区懇談会開始 民生部長あいさつ 事務局説明 ・御嵩町地域福祉計画見直しの趣旨 ・御嵩町の現状 ・地域福祉アンケート結果の報告 ・グループワークの目的と方法
20:00	グループワーク開始
21:00	グループワークの結果発表
21:20	事務局あいさつ
21:30	終了

— 4 地区のまとめ —

〔近所づきあいについて〕

- 近所付き合いがなく、住民同士のつながりが希薄になっている。子どもたちや小・中学生への声かけも少ない。
- アパートなどの集合住宅が多く、転入者の多い地域では、住民同士が顔も名前も知らない。
- 会社勤めなどをしている比較的若い世代は、ほとんど近所とのつきあいが無い。
- 住民同士の関係の希薄さが、地域活動を狭めている。

〔自治会・地域活動について〕

- 自治会未加入世帯が多い。自治会に入らない外国人が多い。若い人は勤めていて、自治会活動に関心がない。
- 基本ルールの不徹底、役割分担の不足など自治会のもつ問題も多い。自治会役員も1年で替わってしまうのでまとまりがない。
- 自治会に新しく入った人と昔からいる人との交流がなく、コミュニケーションの場が少ない。
- 行事に関心を持つ人が少なく、参加するのは同じ人ばかり。地域活動における役員を選出することが難しい。

〔交流の機会・場について〕

- 高齢者が集える施設、生きがいづくり・憩いの場、子どもの遊び場が少ない。
- 子どもが少ないため、大人同士の交流も少ない。
- 子どもと高齢者が一緒に勉強する場づくり（小学校の開放など）。
- 土・日曜日でも障がい者が遊べる場所があると良い。
- ふれあいバス・コミュニティバスの運用が変わって、他地域との交流がなくなった。
- 高齢者の介護施設が人通りの少ないところにあり、青少年・児童とふれあう場所がない事は問題。
- 町内の公民館をもっと活用した方が良い。

〔地域の見守り・連携について〕

- 一人暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が多く、健康などに不安を抱いている人も多い。
少子高齢化なので、高齢者が高齢者を見守る方向で見守りネットワークを強化する必要がある。
- 自治会、民生委員、福祉委員、日赤奉仕団など地域の団体のまとめ役がいらないため、情報交換がうまくできていない。連絡協議会のような場があると良い。
- 一人暮らしの方の見守りや安否確認について、自治会、民生委員などの地域住民が一丸となって見守る体制を作るには、まずは住民皆の意識が大事。

〔ボランティアについて〕

- ボランティアへの参加が少ない。ボランティア団体の会員が高齢化しているので、若い人の参加が必要。
- 定年退職してからボランティアを始めるのは難しい。40歳頃から始められるような、参加しやすいボランティア活動の提供が大事。
- ボランティア活動に参加していても、団体の役員になるのは嫌という人が多い。

〔マナーについて〕

- ペットのフンの処理など、飼い主のマナーが悪い。
- 土地所有者が、植木や雑草の手入れをしてくれなくて、迷惑している。
- 野焼きをする人がいるので、迷惑している。
- 外国人のマナーが悪い。役場に対応してほしい。
- 地域全体がゴミのポイ捨てをやめることが重要。
- 道路などが整備されて便利になった半面、自動車や自転車の横暴さが目に付く。
- 高校生のマナーは前は悪かったが、今は良くなった。

〔福祉教育について〕

- 全般的に福祉教育が不足している。地域福祉計画を住民は知らない。
- 認知症の勉強会などの講座を増やして、認知症の方を抱えた家族への理解を深めてほしい。

〔情報伝達・共有について〕

- 介護サービス・福祉サービスの情報が地域住民に伝わらない。
- 個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報の伝達方法ができていない。特に一人暮らしの人の情報が入ってこないし、逆に情報も伝わっていない。
- 福祉支援や災害時ばかりでなく、近所付き合いに必要な情報もある程度知っておく必要がある。情報が得られないので、互いに深い理解ができない。
- 個人情報保護が優先して、災害時の対応、地域の助け合いの邪魔になっている。地域福祉を進めていく上で、個人情報保護がネックになっているのではないか。

〔福祉サービスについて〕

- 特別養護老人ホームなどの介護施設に入れるか心配。利用料が高額で空きがない。
- サービスがあっても、それが住民にうまく伝わっていない。どこで相談できるのかも含めて、福祉サービスの情報を町のホームページなどにまとめてくれると入手しやすい。
- 町のサービスを利用する人が片寄っている。介護や障がいの介護者も含めて、福祉サービスを必要とする人が、十分なサービスを受けられているか疑問に思う。

〔健康・介護について〕

- 病气療養者が増加している。
- 自分や家族の健康状態、介護に不安がある。身体が不自由になった時のことが心配。

〔高齢化・一人暮らし高齢者の不安について〕

- 高齢者家族や一人暮らし高齢者が増えた。病院などに入院している人なども増えたため、隣近所と連絡がとれないこともある。
- 夫婦二人のときはどうにかなるが、一人暮らしになった時の買い物や介護が心配。一人になった時の負担を少しでも減らす手立てはないだろうか。
- 高齢化が進んで、地域で活動する人が少なくなった。
- 一人暮らし名簿を作成し、1年に何度か会い、互いに話をし、助けあう場所を作ってほしい。福祉の関係者には、一人暮らしの家庭を訪ねてほしい。

〔少子化・後継者不足について〕

- 子どもが少ない。小・中学生がいなくて地域が淋しい。
- 今の子どもは外で遊ばないが、危険なので外で遊べとも言えない。
- 子どもの数が少ないので、子ども会活動には地域の支援が必要。
- 子どもたちが少なくなり、良い事・悪い事など、近隣住民が自由に褒めたり叱ったりすることがなくなった。伝統的な活動も継続できなくなりそう。
- 若者の定着率が低く、他の所へ出ていってしまう人が多いため、後継者がいない。若者の定着率が低いのは、地域の魅力が少ないからではないか。

〔地域の活性化について〕

- 商店が減ってしまい、買い物が不便。他市町に出かけなければ生活必需品も手に入れにくくなった。
- 若者が働きたい職種、職場が近隣に少ないため、御嵩町にとどまれない。
- 行政施策が西高東低となっていて、上之郷へは薄い。色々な機関が御嵩地区に集中している。

〔環境維持・管理について〕（主に上之郷）

- 空き家が増えている。
- のり面の草刈りなど町道、農道の管理が大変。耕作放棄地も多く、地域では管理しきれない。
- 獣害対策が必要。（主にイノシシ）

〔交通手段について〕

- 交通の便が悪いため、車がないと生活できない。将来的に車を運転できなくなると、買い物や通院が困難になる。
- 交通の手段が少ない上に町のデマンドバスの利用方法がわかりづらく、利用しにくい。予約が煩わしく、高齢者には不便。
- 広見線が廃止になると困る。近い将来に交通手段を町全体で考え、公共交通の充実と安全、利便性などの努力が必要。

〔防犯について〕

- 空き巣が多いので、昼間留守にするのが心配。
- 淋しい場所で不審車両が止まっている。気味が悪い。
- 警察には、交通違反のキップ切りよりも、もっと地域の安全を考えてほしい。

〔防災について〕

- 防災への意識が低いため、地震など緊急時の高齢者への支援体制が出来ていない。災害発生時の相互援助方法を自治会単位で考えたい。
- 災害時に備えて、要援護者情報がどうなっているのか知りたい。昔にあった「自治会名簿」を復活させられないか。
- 視覚・聴覚など各障がいに対応した緊急時・災害時の情報伝達、マニュアルの作成、周知が必要。
- 避難所が少なく、遠い。豪雨の際は避難所自体が危険。二次災害も心配。
- 高齢者・要介護者・障がい者が安心できるような避難所が必要。
- 亜炭鉱跡の地震時の陥没が心配。
- 地域福祉と災害時は、“助け合う”意味で同じコンセプト。

〔インフラ整備について〕

- 上水道、下水道がない。
- 地域の道路、歩道、特に通学路が狭い。

1 上之郷地区

平成 25 年 8 月 6 日
グループワーク参加者：26 人
(2グループ)

〔近所付き合いについて〕

- 地区的につきあいが難しく、近所付き合いが少ない。地区の住民同士で話し合うこともできない。
- 特に夜間の緊急時などは、高齢者の連絡の取り方に不安がある。

〔自治会・地域活動について〕

- 高齢者ばかり少人数で、地区の役員をする人材が限られており、自治会の役員がすぐに回ってくるので困る。
- 婦人会などの団体がなくなったので、女性の団体の参加が欲しい（子ども関連）。
- 地域住民と町会議員さんとのつながりをもっと強くして、町の動向についての情報提供を行っていただき、上之郷地区を良くしてもらいたい。

〔交流の機会・場について〕

- 地域の交流が大事だが、コミュニケーションの場や参加しやすい行事が少ない。
- 高齢者が集える施設、憩いの場が少ない。
- 子どもの遊び場がない。子どもが少ないため、大人同士の交流も少ないと思う。

〔地域の見守り・連携について〕

- 地域の福祉委員をもっと活用すべき。福祉委員の役割は、今は敬老会の行事が主なもので、もう少し幅を広げて活動していただきたいと思う。
- 自治会と各種団体（公民館、社協、民生委員、青少年育成推進員など）をつなげるまとめ役がいな。行事ごとにはまとまっているが。
- 民生委員と自治会長と福祉委員と話し合いができれば良いと思う。まず皆で地域を見守る。
- 住民票が同居となっていると、現状で一人暮らし高齢者であっても見守りの対象から外されてしまっている。

〔情報伝達・共有について〕

- 地域住民同士での情報の伝達が重要。
- 守秘義務が民生委員などの活動を妨げている。

〔福祉サービスについて〕

- 福祉サービスを利用しているが、ケアマネジャーさんが頑張ってくれている。
- 福祉サービスを必要とする人が、十分なサービスを受けられていないのではないか。

〔健康・介護について〕

- 自分や家族の健康状態、介護に不安がある。
- 身体が不自由になった時のことが心配。
- 家族の誰かが病気になった時、どうするのか不安。

〔高齢化・一人暮らし高齢者の不安について〕

- 高齢化が進んでおり、お年寄りが孤立している。
- 夫婦二人のときはどうにかなるが、一人になった時が心配。
- 一人暮らしになった時の買い物や介護のことが心配。

〔少子化・後継者不足について〕

- 子どもが少ない。小・中学生がいなくて地域が淋しい。
- 後継ぎとなる子どもが遠くで暮らしている。
- 若者の定着率が低く、他の所へ出ていってしまう人が多いため、後継者がいない。地区の人数も減ってしまい、高齢化も加速する。若者の定着率が低いのは、地域の魅力が少ないからではないか。

〔地域の活性化について〕

- 若者が働きたい職種、職場が近隣に少ない。
- 商店が減ってしまい、買い物が不便。食材などを買える商店が近くに欲しい。
- 山間地域なので配食サービスが受けられない。
- 行政施策が西高東低となっていて、上之郷へは薄い。

〔環境維持・管理について〕

- 空き家が増えている。
- のり面の草刈りなど町道、農道の管理が大変。
- 耕作放棄地が多く、地区では管理しきれない。
- 農作物への獣害（イノシシ・ハクビシン）対策が必要。

〔交通手段について〕

- 買い物などの生活圏まで遠く、交通の便が悪いため、車がないと生活できない。
- 将来的に車を運転できなくなると、買い物や通院が困難になる。
- 高校などに通学するのに不便。
- 交通の手段が少ない上に町のデマンドバス制度がわかりづらく、利用しにくい。高齢者には不便。
- 近い将来に交通手段を町全体で考え、公共交通の充実が必要となる。交通に関して、安全、利便性などの努力が必要。

〔防犯について〕

- 空き巣が多いので、昼間留守にするのが心配。
- 淋しい場所で不審車両が止まっている。気味が悪い。

〔防災について〕

- 災害時が心配。避難所が遠く、行く手段にも不安があり、避難しにくい。避難所が安全なのかも疑問。
- 災害時の見守りは、自治会長、民生委員、議員が個人的に一人暮らし高齢者宅へ安否確認に行くが、二次災害が心配である。

〔インフラ整備について〕

- 上水道、下水道がない。

2 御嵩地区

平成 25 年 8 月 5 日
グループワーク参加者：33 人
(3グループ)

〔近所付き合いについて〕

- 住民同士のつながりが薄い。仕事をしている人がほとんどで、話をする機会、顔を合わせる機会がない。
- 会社勤めをしているので、ご近所とのつきあいは少ない。同じ班以外の人ことはまったくわからない。
- 自分の生活や仕事に手一杯で、他に気を配ることができない。
- “地域力”と言われるが、子どもたちや小・中学生への声かけが少ないと思う。

〔自治会・地域活動について〕

- 町の行事に関心を持つ人が少ない気がする。掃除などの自治会行事に参加しない人が多い。その時間帯に買い物に行ってしまう。町内活動を強制すると、やっと参加する程度。
- 自治会役員も 1 年で替わってしまうので、まとまりがない。
- 自治会活動の効果 — 積極的に参加しない状況であっても、役割分担として参加すれば意義はある。

〔交流の機会・場について〕

- 多目的な大ホールがないため、行事が行えない。公民館以外の文化施設があると良い。
- 高齢の男性の集まれる場所が少ない。高齢者がスポーツや趣味に参加できるよう施設を無料で開放してほしい。
- 公園などの遊び場が少ない。南山の B & G 公園以外に子どもたちの遊べるところがない。
- 土・日曜日でも障がい者が遊べるところがあると良い。
- 御嵩町のみならず、高齢者の施設が人通りの少ないところにあり、青少年・児童とふれ合う場所がない事は問題。
- ふれあいバス・コミュニティバスの運用が変わって、ふらっとハウス利用者が減ってきた。他地域との交流がなくなった。

〔地域の見守り・連携について〕

- 月1回程度の訪問を希望する一人暮らし高齢者が、町内に5人ほどいる。近所に一人暮らしの人がいるので、気をつけている。
- 地区を周ってみて、訪問してほしいという一人暮らし高齢者は男性に多い。
- 一人暮らしの方の見守り・安否確認について、自治会、民生委員、地域住民が一丸となって見守る体制を作れないか。まずは皆の意識が大事。

〔ボランティアについて〕

- ボランティア団体の会員が高齢化しているので、もっと若い人に入ってほしい。横のつながりもないので、団体同士の連携も必要。
- 定年退職してからボランティアを始めようとしても、なかなかできないのが現状。40歳頃から取り組める地域のボランティア活動が提供できると良い。

〔マナーについて〕

- 隣近所の草刈り、植木の管理の問題。
- 朝早くから犬の鳴き声がうるさい。
- ネコの被害
- 他の町内の人々が犬の散歩をしているが、フンを持ち帰らない。土手などに捨てて行く。
- 外国人が夜中に歌を歌うのでうるさくて困る。

〔情報伝達・共有について〕

- 自治会に入らない人がいるため、転入してきた人の情報がわからない。
- 情報が入ってこないため、同じ町内に障がい者がいるのかわからない。
- 自治会の世帯名簿の管理役をしているが、どこまで入って良いのかわからない時がある。
- 介護サービス・福祉サービスの情報が伝わらない。

〔福祉サービスについて〕

- どこで相談できるのかも含めて、福祉サービスの情報がわからない。町のホームページなどにまとめて出してくれると入手しやすい。

- ごみ出しなど短時間の福祉サービスが必要。
- 特別養護老人ホームなどの介護施設に入れるか心配。利用料が高額で空きがない。

〔高齢化・一人暮らし高齢者の不安について〕

- 自治会内には高齢者の方が多いので、地域活動も高齢化している。
- 一人暮らしだから、何か調子が悪くなった時に困る。救急的処置の後の対処について、病院から自宅または施設をどう選択するか。
- 一人暮らし名簿を作成し、1年に何度か会い、互いに話をし、助けあう場所を作ってほしい。
- 福祉の関係者は机に向かって仕事をするのも大切だが、一人暮らしの家庭を訪ねてほしい。

〔地域の活性化について〕

- 高齢者が生活するには商店が少なすぎる。選べない。
- 野球場が狭いため、プロ・高校野球ができない。御嵩町の活性化になるように施設整備をしてほしい。

〔交通手段について〕

- 御嵩町の商店が少なくなり、スーパーが遠く、車に乗れなくなった場合が心配である。
- デマンドバス（予約バス）が不便になった。1時間前に予約厳守が面倒。
- ふれあいバスの本数が少なすぎる。歩けない高齢者は行事などに出られない。
- 名鉄広見線がなくなってしまうたら困る。電車を残してほしい。

〔防犯について〕

- 現在、可児警察が交通違反のキップ切りに力を入れている。捕まえる事よりもっと安全を考えてほしい。

〔防災について〕

- 町中に避難所が少ない。豪雨の際は避難所自体が危険。
- 災害時の避難所で、高齢者・介護者・障がい者が生活できるのか心配。

- 障がい者に対する避難所の確保。専門性のある人員配置の工夫が必要。
- 各障がいに対応した緊急時・災害時の情報伝達、マニュアルの作成、周知が必要。
- 亜炭鉱跡の地震時の陥没が心配。
- 原発の再稼働は本当に大丈夫か。

〔インフラ整備について〕

- 地域の道路、歩道、特に通学路が狭い。
- みたけの森のトイレを水洗化してほしい。子どもが怖がる。

3 中地区

平成 25 年 8 月 8 日
グループワーク参加者：33 人
(3 グループ)

〔近所付き合いについて〕

- 住民が閉じこもりがちで付き合いがなく、地域のつながりが希薄。隣に一人暮らし高齢者が住んでいるが、以前からあいさつもしないのでよく知らない。班内の交流がないところもある。
- アパートが多くなり、転入者が増えたが、どういう人が生活しているのか、顔も名前もわからない。昼夜逆転した生活をしている人もいる。
- 少子高齢化で町内に人が少なく、話し合いもできない。特に、若い世代の他人への関心が薄い。

〔自治会・地域活動について〕

- 自治会未加入世帯が多い。基本ルールの不徹底、役割分担の不足など自治会が抱える問題も多い。また、若い人は勤めていて、自治会活動に関心がない。
- 地域のさまざまな行事に、参加する人と参加しない人が固定している。住民の意見のまとまりが良いとは言えない。
- 外国人が増え、自治会に入らない。

〔交流の機会・場について〕

- 公園など子どもの遊び場が少ない。なくなってしまった。

〔地域の見守り・連携について〕

- 民生委員として訪問していると、健康などに不安を抱いている一人暮らし高齢者が多い。自治会役員と民生委員、日赤奉仕団、地域で活動している人などの連絡協議会があると良い。
- 一人暮らし高齢者の見守りの強化（ネットワークづくり）。少子高齢化なので高齢者が高齢者を見る方向で考えていく必要がある。
- 団地なので、支援が必要な人の声をどうつかみ、解決につなげていくかが課題。

〔ボランティアについて〕

- ボランティアへの参加が少ない。人の世話になりたくない、世話をしたくないという高齢者が多い。
- ボランティア活動などに参加していても、団体の役員になるのは嫌という人が多い。

〔マナーについて〕

- 草がたくさん生えていても、刈ってくれないので困っている。
- 中国人が増えていてマナーが悪い。農作物を盗まれて困っている人がいる。
- マナーの悪い外国人については、勤め先に苦情を寄せることで、勤め先からその外国人に指導してくれる所もある。
- 外国人に外国語のガイドを渡すなど、役場に対応してほしい。

〔福祉教育について〕

- 全般的に福祉教育が不足している。地域福祉計画を住民は知らない。

〔情報伝達・共有について〕

- 助け合いが大切だが、個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報の伝達できていない。特に一人暮らしの人の情報が入ってこないし、逆に情報も伝わっていない。
- 福祉支援や災害時ばかりでなく、近所付き合いに必要な情報もある程度知っておく必要がある。情報が得られないので、互いに深い理解ができない。児童、生徒においても。

〔福祉サービスについて〕

- 施設の不足など介護保険のあり方について、福祉対策が投げやりに感じられる。
- 移送サービスがあっても、それが住民にうまく伝わっていない。
- 要介護者を抱える家族が、自分の幸せも実現するためのしくみづくりを考える必要がある。
- 介護用品の費用、又運転手つきの車両の貸出などがほしい。
- 障がい者の対策が未整備。障がい者が家族の保護下でなく、一人の人として生きるために生活資金の確保が必要。

〔健康・介護について〕

- 病気療養者が増加している。

〔高齢化・一人暮らし高齢者の不安について〕

- 高齢者家族や一人暮らし高齢者が増えた。病院などに入院している人なども増えたため、隣近所と連絡がとれないこともある。
- 高齢化が進んで、地域で活動する人が少なくなった。

〔少子化・後継者不足について〕

- 核家族が増え、子どもが少なくなった。子どもの遊び場が必要なくなった。
- 今の子どもは外で遊ばないが、危険なので外で遊べとも言えない。
- 子どもの数が少ないので、子ども会活動には地域の支援が必要。

〔交通手段について〕

- 交通の便が悪く、車社会なので、高齢になって車に乗れなくなってきた時が心配。タクシーでは通院などにお金がかかる。
- 電車の本数が少ない。広見線が廃止になると困る。

〔防犯について〕

- 不在者、空き家の増加。

〔防災について〕

- 町内は高齢者ばかりで一人暮らし高齢者も増えており、災害時が心配。避難所へ行けない時の連絡先はどこか、どうやって連絡するのか、災害対策が未整備。
- 災害時に備えて、要援護者情報がどうなっているのか知りたい。昔あった「自治会名簿」を復活させられないだろうか。
- 避難所が少ないため、遠い。避難所で、高齢者・障がい者・要介護者が生活できるのか疑問。
- 地域福祉と災害時は、“助け合う”意味で同じコンセプト。

4 伏見地区

平成 25 年 8 月 9 日
グループワーク参加者：39 人
(3グループ)

〔近所付き合いについて〕

- 親子・近隣などの人間関係が希薄になっており、住民全体の顔がわからない。近所付き合いがなくて町内の和が少ないため、活動も狭められている。
- 核家族化が進み、経済が向上して互いに思いやる心が少なくなり、道徳心も希薄になり、情が薄くなった気がする。隣との仲が悪いわけではないが、会話をしたくない人が多い。
- 自治会内でも各家庭の状況を知ることができないため、地域にどのような人が住んでいるのかわからない。
- 一人暮らしの人の中には、遠慮して皆の仲間に入ろうとしない人がいる。一人暮らしの若い人は、地域の付き合いをしていない。
- 昔のような近所付き合いがないので淋しい。高齢化が進んでいるので、町内の付き合いを深めていきたい。これから地域の人たちがどのようにやっていったら良いか。

〔自治会・地域活動について〕

- 行事への参加が少ないので、同じ人ばかり参加することになる。特に高齢者の参加が少ないため、どうしたら参加者が増えるのかがわからない。
- 寄合・会合も合理化され、近所との触れ合いや付き合いが少なくなり、楽にはなったような、不安なような…
- 自治会に新しく入った人と昔からいる人との交流がなく、コミュニケーションの場が少ない。高齢者との対話も少ない。
- 地域活動における役員を選出することが難しい。

〔交流の機会・場について〕

- 高齢者の集う場、生きがいづくりの場が少ない。高齢者用の公園があっても良い。
- 高齢者が生きがいづくりの場に積極的に参加しないのは何故か。町内の公民館をもっと活用した方が良い。

- 敬老会の会場が小学校の体育館で、暑いから不参加だという声が多い。空調の整った会場があるともっと参加者が増えるのではないか。
- 児童公園など子どもが安心して遊べる場所が少ない。子どもが安心して外で遊べない。
- 子どもと高齢者が一緒に勉強する場づくりが必要（小学校の開放）。

〔地域の見守り・連携について〕

- 訪問しても聞く耳を持たない人がいる。
- 民生委員と自治会の連携がない。情報交換の場が必要。
- 福祉サービス対象世帯の区別があいまいではないか。

〔ボランティアについて〕

- いろいろなボランティアに参加し楽しんでいる。参加しやすいボランティア活動の提供が大事。
- 一人暮らしの家の清掃ボランティアがあると良い。

〔マナーについて〕

- 高校生のマナーが大変良くなった。
- 犬や猫の糞尿に困っている。
- ゴミ出しの曜日を間違えている人がいる。ゴミを野焼きしている人もいる。
- 福祉をやる前に、地域全体がゴミのポイ捨てを止めることが重要。特にタバコなど。
- 畑などで物を燃やす時間を考えてほしい。洗濯物に臭いがついて困っている。
- 道路などがよく整備されて便利になった半面、自動車・自転車の横暴さが目に付く。交通事故などの危険性も大きくなった。

〔福祉教育について〕

- 認知症の勉強会や講座を増やして、認知症の方を抱えた家族への理解を望みます。

〔情報伝達・共有について〕

- 個人情報保護法で、高齢者・障がい者などの情報がわからない。民生委員へもっと情報提供をしてほしい。

- 自治会内の情報の共有が問題。
- 個人情報保護が優先して、災害時の対応、地域の助け合いの邪魔になっている。地域福祉を進めていく上で個人情報保護がネックになっているのではないか。
- 母子家庭同士の輪を広げたくても情報がもらえない。残念。
- 一人暮らしの人の情報をどのように知り、どのようにして情報を伝えるか。
- 御嵩広見線活性化ニュースが回覧されてくるが、量が多すぎて読む気になれない。

〔福祉サービスについて〕

- 特別養護老人ホームへの入所が難しい。
- 町のサービスを利用する人が片寄っている。

〔健康・介護について〕

- ピンピンコロリの地区ごとの対策はどうなっているのか？

〔高齢化・一人暮らし高齢者の不安について〕

- 高齢化が進んでいて、高齢者夫婦のみの家や一人暮らし高齢者が増えている。
- 二人で住んでいるうちは良いが、この先一人になったらどうしよう考える。
- 一人暮らし高齢者の生活が見えない。一人になった時の負担を少しでも減らす手立てはないだろうか。
- 息子たちが近くにいないと淋しい時もあるが、安心して農業に励める時もある。

〔少子化・後継者不足について〕

- 子どもたちが少なくなり、良い事・悪い事など、近隣住民が自由に褒めたり叱ったりすることがなくなった。伝統的な活動も継続できなくなりそう。
- 伏見の子どもが少ない。中学校での部活動はどうなるのか。
- 後継ぎがない家が多く、高齢者夫婦だけの世帯が増えている。
- 独身男性が多く、将来が心配（婚活問題）。

〔地域の活性化について〕

- 昔は大通りに商店がたくさんあったが、淋しい町並みになり、他市町に出かけなければ生活必需品も手に入れにくくなった。

- 若い人が働く場が少ないため、御嵩町にとどまれない。
- いろいろな機関が御嵩地区に集中している。

〔環境維持・管理について〕

- 空き家が増えている。
- 昔、田の水路だったところが遮られ、草や水が溜まり汚いままになっている。

〔交通手段について〕

- 交通の利便性が悪く、車に乗れなくなった時の生活に不安を感じる。
- 町のデマンドバスを使って病院やあっと訪夢に行きたいが、停留所が遠くて利用できない。高齢者には利用しにくい。
- 電車廃線対策がおかしい。御嵩発はあるが、御嵩に人を呼ぶ方策が弱いのでは。

〔防犯について〕

- 学校周辺にある交通安全の看板が多すぎるので、看板の見落としもあり、逆に危険になっている。理解できない。

〔防災について〕

- 御嵩町は全国の他地域と比べて災害の少ない住みやすい町だと思います。
- 一人暮らし、高齢者世帯の災害時の援助はどのようにしたら良いか。防災への意識が低いため、地震など緊急時の高齢者への支援体制が出来ていない。災害発生時の相互援助方法を自治会単位で考えたい。
- 災害時の避難所が遠い。
- 亜炭鉱に対する処置内容に不安。

〔インフラ整備について〕

- 道路整備をしてほしい。
- 兼山から国道21号線への交通量が多い。

3 計画の策定経緯

年 月 日	策定委員会・地区懇談会
平成25年5月25日 (～6月7日)	地域福祉に関する町民アンケート調査の実施 ・20歳以上の町民1,500人を無作為抽出 ・郵送配布・郵送回収
平成25年6月3日	団体ヒアリング調査 ①【日赤奉仕団】 ・活動状況と今後の展望などについて
平成25年6月7日	団体ヒアリング調査 ②【民生委員・児童委員協議会】 ・活動状況と困っていることなどについて
平成25年6月14日	団体ヒアリング調査 ③【ケアリンク】 ・活動状況と活動に必要な支援などについて
平成25年6月19日	団体ヒアリング調査 ④【社会福祉協議会】 ・地域福祉の進捗状況と今後の展望などについて
平成25年7月1日	団体ヒアリング調査 ⑤【小中学校校長会】 ・学校における福祉教育の状況と今後の展望などについて
平成25年7月3日	第1回策定委員会 ・御嵩町の現状などについて ・第1次地域福祉計画の取組状況について ・町民アンケート調査結果報告
平成25年7月5日	団体ヒアリング調査 ⑥【民生委員・児童委員協議会】 ・活動に必要な支援と連携の方策などについて
平成25年8月5日	御嵩地区懇談会 ・地域福祉計画の概要などについて ・アンケート調査結果にみる地域の課題について ・地域の課題と解決方法について
平成25年8月6日	上之郷地区懇談会 ・地域福祉計画の概要などについて ・アンケート調査結果にみる地域の課題について ・地域の課題と解決方法について

年 月 日	策定委員会・地区懇談会
平成25年8月8日	中地区懇談会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の概要などについて ・アンケート調査結果にみる地域の課題について ・地域の課題と解決方法について
平成25年8月9日	伏見地区懇談会 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画の概要などについて ・アンケート調査結果にみる地域の課題について ・地域の課題と解決方法について
平成25年10月10日	第1回策定作業部会 <ul style="list-style-type: none"> ・第1次地域福祉計画の取組状況について ・町民アンケート調査結果報告 ・地区懇談会のまとめ報告 ・第2次地域福祉計画素案について
平成25年10月25日	第2回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・地区懇談会のまとめ報告 ・第2次地域福祉計画素案について
平成26年1月20日	第3回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画案の検討 ・計画の推進方法
平成26年1月23日 (～2月11日)	パブリックコメントの実施
平成26年2月21日	第4回策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画案に対するパブリックコメントについて ・意見交換など

4 御嵩町地域福祉計画等策定委員会

(1) 設置要綱

○御嵩町地域福祉計画等策定委員会設置要綱

平成19年1月30日

訓令甲第1号

改正 平成21年3月31日訓令甲第19号

平成25年1月4日訓令甲第2号

平成25年3月7日訓令甲第13号

(設置)

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条の規定に基づく町の地域福祉計画及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第88条の規定に基づく障害福祉計画（以下これらを「地域福祉計画等」という。）の策定及び推進に関する事項を調査・審議するため、御嵩町地域福祉計画等策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（平25訓令甲2・平25訓令甲13・一部改正）

(所管事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査・審議するものとする。

- (1) 地域福祉計画等の策定のための基本的事項に関すること。
- (2) 地域福祉計画等の素案の策定に関すること。
- (3) その他地域福祉計画等に係る事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員15名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

- (1) 福祉関係者
- (2) 保健・医療関係者
- (3) 識見を有する者
- (4) 公募により選出された町民
- (5) 前各号に掲げるもののほか、町長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員のうちから互選する。

2 委員長は、委員会を統括し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときは、新たに委員を委嘱するものとし、その委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の招集)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じ招集する。ただし、委員の委嘱後の最初の委員会は、町長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(作業部会)

第7条 委員会に係る所掌事項の予備的な調査・研究に従事させるため作業部会をおく。

2 作業部会は、別表に掲げる者をもって充てる。

(庶務)

第8条 委員会及び作業部会の庶務は、社会福祉を担当する課において行う。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成21年訓令甲第19号）

この訓令は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成25年訓令甲第2号）

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年訓令甲第13号）

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

別表（第7条関係）

（平21訓令甲19・全改）

作業部会員
政策調整担当係長
消防防災担当係長
まちづくり推進担当係長
高齢福祉担当係長
介護保険担当係長
保健予防担当係長
児童福祉担当係長
商工観光担当係長
都市政策担当係長
生涯学習担当係長
社会福祉協議会 事務局長

(2) 委員名簿

氏 名	所 属 等	備 考
瀬 正 志	社会福祉協議会会長（地域福祉）	委員長
是 永 武 利	身体障害者福祉協会可児郡支部長（障がい福祉関係）	副委員長
加 藤 一 男	民生委員・児童委員協議会会長（地域福祉）	
石 川 勅 子	さわやかナーシングみたけ施設長（高齢福祉関係）	
安 藤 陽 之 助	ボランティア連絡協議会（地域福祉）	
籠 橋 壽 子	あゆみ館家族会会長（障がい福祉関係）	
蔵 澄 寿 磨 子	御嵩町障害者支援多機能事業所あゆみ館施設長（障がい福祉関係）	
森 勝 彦	福祉オンブズパーソン	
名 倉 さ お り	公募委員（御嵩地区）	